



St.Luke



# [年報]

2007.1.1 ▶ 2007.12.31



医療法人セント・ルカ  
セント・ルカ産婦人科  
セント・ルカ生殖医療研究所



# 目次

卷頭言	1
一年を振り返って	
心理専門相談室	3
看護部	5
培養室・検査室	7
受付	9
情報処理室	11
厨房	13
診療統計	
外来患者および妊娠結果の内訳	15
外来・入院数	17
入院数	18
妊娠数	19
初診後妊娠までの期間	22
腹腔鏡検査後妊娠までの期間	22
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率	23
ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠	23
35歳未満・体外受精1回目の妊娠率	24
ART(生殖補助医療)による妊娠	24
ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況	25
異常児の詳細	25
セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ	27
行事一覧	28
論文一覧	39
著書(共著)一覧	39
院内活動	
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	41
スタッフ配置	44
病院概要	45

## 卷頭言

宇津宮 隆史

早いもので、JISART（日本生殖補助医療標準化機関）が広島 HART クリニック 高橋克彦院長（JISART 理事長）の高邁な理念の下、14 施設で結成され 6 年が経過した。その間、オーストラリアの Dr. Sounders を中心に、かの国の RTAC（生殖技術認定委員会）について学び、かつ、Dr. Sounders も数回にわたって来日され、われわれを指導してくださった。そして、2005 年にオーストラリアの Dr. Sounders、Dr. Pike、Nrs. Elizabeth らによって JISART 施設審査が行われ、10 施設が認定を得た。今年はそれから 3 年経過した。Dr. Saunders は、3 年間の約束で指導してくださり、それ以後は、われわれ日本人自身で審査を行うという計画であった。そして今年、2008 年、われわれ自身で各施設の更新審査を行った。これは全世界的にも画期的なことであろう。プライベートクリニックがお互いに厳格なガイドラインに沿って、お互いの施設を審査する。医師、ラボ、看護部、カウンセリング部門、事務部門、患者さん部門にそれぞれ審査委員が割り当てられ、審査した。審査委員の中には、患者さん代表の方々も参加し、実際その施設で現在医療を受けている患者さんを加えて施設審査を行った。この経験は、われわれ自身にとって、本当に貴重な財産になるであろう。

次に、着床前診断（PGD）であるが、さまざまな問題を抱えている挙児希望の患者さんにとて、有力な治療法となるであろう。現在、日本産科婦人科学会倫理委員会の認可を受けて PGD を行ったのは、全国で 4箇所であり、そのひとつに当院がある。今後はこれを積極的に推進し、さらに範囲を拡大しなければならないと考えるし、それにあたっては、更なる責任を考慮しなければならない。そのためにはソフト、ハード両面から整備をしなければならない立場にある。

また、生殖医療は最近では大きな進歩が見られないが、その中でわれわれは、山形大学大学院理工学研究科 阿部宏之先生との共同研究で、胚の呼吸量測定を日産婦倫理委員会の認可を受け安全性の実験を行い、それが確認され、今ではすべての胚の呼吸量まで測定して移植を行っている。これも世界で初めての試みで、やはり形態と呼吸量が良い胚が最も妊娠率が高いことも確認されつつある。更に、生殖医療の安全性についても、東北大学未来医工学治療開発センター 有馬隆博先生との共同研究で、卵子、精子、流産胎盤のそれぞれのインプリンティング異常を調べ、これらの成果も世界で初めての研究結果で、3 つの論文に仕上がった。生殖医療では自然とは異なる環境で受精、胚発育、着床が行われるので、細かい点までできるだけ詳細に研究を進め、その安全性、問題点などを明らかにしながら臨まねばならない。

ここまで 16 年かかったが、最近では、生殖医療は他の疾患とは異なり、多くの側面があることが感じられてきた。生殖医療は 7 つの分野の共同作業である。産婦人科医師、泌尿器科医師、胚培養士、看護師、心理士、統計処理、受付事務である。さらに患者さん夫婦を加え、8 つの部門のチームワークともいえよう。心理、看護部門では、生殖心理カウンセラーがすでに 30 名ほど全国で活動し、さらに、当院でも、3 人の不妊相談士が誕生した。これらの育成には、当院の上野桂子臨床心理士と東京 HART クリニッ

ク 平山史朗臨床心理士の力と情熱によるものである。世界的にもこれほど整った患者サポートシステムはなかろう。最近では、患者サポートも心理部門と看護部門を分け、それぞれが協力し合いつつ、独自の長所を生かした仕事をなさねばならないと感じている。

胚の凍結方法は、今ではすべてガラス化法で行っている。この方法により、未受精卵でも凍結が可能となった。それによって、すでに当院では、未婚がん患者さんの卵子凍結を行っている。これも、A-PART (The International Association of Private Assisted Reproductive Technology Clinics and Laboratories) 日本支部が、日産婦登録調査委員会に認可を受け、全国の A-PART に所属している 10 施設で、すでに 100 名以上の患者さんが卵子凍結を行っている。この技術は今後、対象と実施施設の拡大を図る時期が来たと思う。さらに、将来の生殖機能が損なわれる可能性のある疾患には、すべて適用できる体制が臨まれる。

また、患者さんの社会的経済的側面へのサポートも重要で、そのひとつとなる生殖医療の保険適用範囲拡大運動も、地道ではあるが、今後も持続してゆかねばならない。今年からは、この運動は患者さん自身に運営してもらう予定で、患者団体の NPO 法人 Fine がその中心になろう。

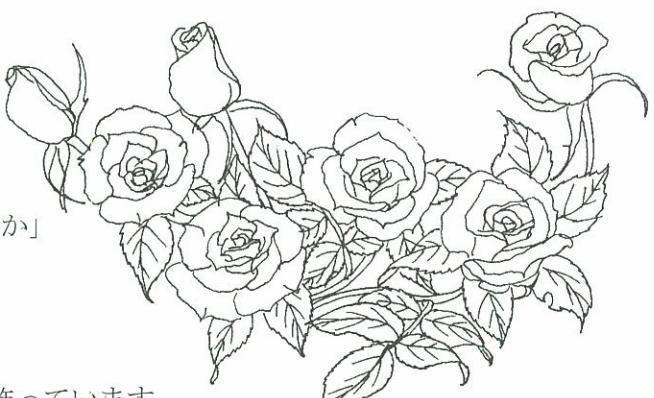
開院以来 16 年が経過した。今年は 5000 人目の妊娠が出るであろう。今後は生殖医療の理想的なあり方を探り、JISART、A-PART、Fine も巻き込んでわれわれ独自の運動を展開してゆかねばならない。

### 春の花

#### バラの花言葉

「私はあなたを愛する」  
「あなたのすべてはかわいらしい」  
「愛情」「輝かしい」「無邪気」「爽やか」

患者さんの心が和みますように、  
問診室の院長の机には、いつもバラの花を飾っています。



## 一年を振り返って

### 心理専門相談室

この一年間を振り返ってみると、生殖医療の領域において心理的サポートの必要性が当たり前のものとして認識されてきたと感じられる一年ではなかったかと思います。

2006 年から始まった日本生殖医療心理カウンセリング学会による生殖心理カウンセラーの認定者も 2008 年 3 月で約 30 名になり、それぞれの地域で活躍しています。心理士による各学会での、不妊症患者さんの色々な角度から見た心理的な問題やサポートについての発表も増え、生殖医療の現場での理解が進んでいます。今年度からは、同学会によるコ・メディカルを対象とした「不妊相談士（不妊コンサルタント）養成講座」も始まり、心理相談と治療についての相談が整理されてきて、患者さん方がその時々によって選べる体制が整ってきました。当院からも、看護師 2 名と胚培養士 1 名が資格を取得し、一層患者さんのサポートが充実したものとなりました。

また、2008 年は、JISART 施設の認定審査が初めて国内のメンバーだけで行われた記念すべき年であると思われます。当院でも審査を受けると同時に、院長先生はじめ看護部門、培養室部門、心理部門のスタッフが審査員として他施設の審査に当たらせていただきました。

この審査に今回から、今まで無かった心理部門が新しく入ったことは画期的なことと捉えています。常勤、非常勤、契約など勤務形態はどうであれ、他の業務と兼任していない、カウンセリングを専門に行う心理カウンセラーがいなければならぬことが、必須項目となったのです。このことも生殖医療の分野での心理的サポートの必要性が認められてきたことの一端だとうれしく思います。

そして、審査員として他の施設の心理相談室を訪問させて頂いたことや、審査をしていただいたことは、自分の日頃の仕事を見直す、とても良い機会となりました。

また、この審査には、患者さんの自助グループ、Fine のメンバーと、当院の患者さんが当院での経験について意見を交換する、患者さんサイドからの審査が入っています。心理相談については、カウンセリングを受けたことのある患者さんからは、概ね良い評価をいただきましたが、受けたことのない患者さんからは、「まだまだカウンセリングは敷居が高い」というご意見もいただきました。カウンセリングでお話ししたことのある患者さんからの暖かいお言葉は大変有り難く、勇気づけられました。それと同時に、これから取り組まなければならないことも見えてきました。

審査員として、また、審査を受ける側としての経験を通して強く感じたのは、カウンセリングとはどんなことをするのか、どんな時に利用したら良いのか、どのように予約を取るのかなど、カウンセリングについて、患者さんにもっと良く知って頂かなければいけない、もっとカウンセリングに対する抵抗感を無くして利用して頂きやすい心理相談室にしていかなければならぬということです。

また、当院の心理と看護部との共同研究で、今年看護部が発表した「初診患者さんに対する CMI を用いた健康調査」では、初診の時に心身の不調を多く自覚している患者

さんは、治療を早期に止める方が多いこと、心身の健康状態にかかわらず治療を途中で止める患者さんは、初診から半年以内に止める方が大変多いことが分かり、初診から半年位までの患者さんへのサポートが重要であることが示唆されました。これまで重点的に取り組んできた、治療の難しい患者さんや治療終結時のサポートに加え、治療を始める時や治療歴の浅い患者さんに対しても心を配り、サポートを提供していくことが求められていると思います。

不妊治療は先の見えない、自分でコントロールすることが難しい治療だと言われています。女性ばかりでなく、男性にも、夫婦の関係にも様々な影響を及ぼすことが分かっています。患者さんは、今まで経験したことのない状況に適応していかなければなりません。治療初期のサポートは、その意味で重要な役割を担っており、そのためにも、患者さんの役に立つ、利用しやすい心理相談室であることが求められていると考えます。

生殖医療における心理的サポートが当たり前のものとして認められてきた今、患者さんが安心して治療を受けて頂けるよう、そして自分らしく、状況に折り合って、こころ穏やかに過ごすことができますよう、少しでもお役に立てる心理相談室を目指して、これからも心を新たに取り組んでいく所存ですので、どうぞよろしくお願ひいたします。

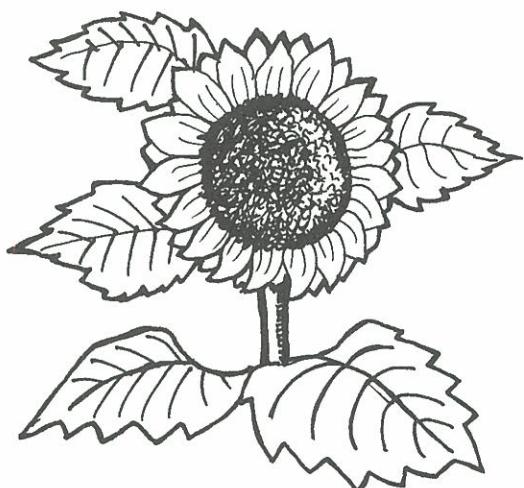
心理専門相談室 上野 桂子

夏の花

ひまわりの花言葉

「あこがれ」

「私の目はあなただけを見つめる」



## 一年を振り返って

### 看護部

病院の敷地内に大分市の水路が通っています。幅1m強の水路は、やがてやって来る田植の時期には水門が開けられ、勢いよく流れ始めた水で一杯になります。

この水路の土手に、今年も黄色のたんぽぽがかわいく咲いています。日中に何度も研究室を往復する際に、土手の草花で四季の移り変わりを肌で感じながら、開院当初を懐かしく思い出したりします。この土手の草取りは結構大変で、雑草の根が深いため、みんなで汗を拭き拭き挑戦した、土まみれの笑顔が浮かびました。  
たんぽぽの綿毛が飛ぶ頃は大分も初夏に入ります。

当院は、2008年4月20日にJISART RTAC 更新審査を受審し、医師部門・培養室部門・看護部門・心理部門・事務部門・患者部門で僅かの改良意見のみで、全てに高い評価を頂きました。

3年前（2005年2月）に初めてJISARTのRTAC審査に合格した頃の事が思い出されます。初めての審査という事で看護部全員がマニュアル化に向けて必死でした。これを機会に仕事の手順が簡素化、統一化され、動き始めたという実感がわいてきましたが、それは全スタッフに浸透されたものではなく、数人のスタッフ間のみで回っている状況でした。今年の審査では当院の看護師が、1年前からJISART主催の看護師部門審査のための教育セミナーやガイドラインの見直しの勉強会に参加し実績を挙げた結果、（今回、10施設がJISART認定審査を受審するのですが）JISART認定審査に看護部門の審査員として参加する事が出来ました。スタッフは確実に質の向上の意識が身につき始めています。また今回の患者部門審査に於いて、患者グループインタビューの参加募集に、当院の患者さんが最も多くのアクセスがあったそうで、NPO法人Fine（現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会）の方から「常に患者さんと会話していることや、行き届いた心配りの賜物でしょう」とのお言葉を頂き、スタッフ一同とても嬉しく思いました。奢ることなく、新たに心を引き締めて患者さんとの関わりを大切にしていきたいと思います。

品質管理システムを導入する事で、生殖補助医療の質の向上と、患者満足度を高めるという目標を掲げたJISART審査を受ける準備を、新年早々から始めました。何度も何度もチェック項目を確認し合う中で、当院が行っている患者さんの心理面でのサポートの重要性を再認識しました。「赤ちゃん～今ならきっと授かる～」講座や「新患教室」、「体外受精教室」、そして看護部主催の患者さんの会である「オリーブの会（40歳以上の体外受精をされている方）」や「ガーネットサークル（治療中の患者さんと、治療、出産経験者とのお話）」そして「治療を終結した方のお話の会（年に1回開催）」を長年続いていることが、患者さんの治療継続の大きな糧となると思えます。

今年の3月に、日本生殖医療心理カウンセリング学会主催の「2007年度（第1期）不妊相談士養成講座」を受講後、当院から看護師2名、胚培養士1名が「不妊相談士」

の資格を授与され、第一歩を踏み出しました。受けた技や知識を身に付けて生かしていくことを強く望むと共に、スタッフの体制作りにも心がけたいと思います。また、2月に開催された大分県周産期研究会では、院長が「生殖補助医療の現状について」の発表を行い、スライドの中に「生殖医療には8つのチームワークが必要」という内容が含まれていました。つまり、患者さんを中心に、産婦人科医、泌尿器科医、培養室スタッフ、看護スタッフと心理スタッフ、情報処理、受付スタッフの6つのチームに加えて、更に周産期、小児科医の2チームが参加し、生殖医療で妊娠し生まれてくる出産前後のケアや、生まれた後の児のケアを見据えた8つのチーム医療の大切さを話しました。更に政府に対し、政策として、生殖医療を援助し、赤ちゃんが欲しいと治療されている患者さんが安心して治療を受けられ、また、産まれてくる子供が「本当に産まれてきて良かった」と思える社会の実現化に向けての努力を強く希望しています。

来る7月22日にはISO9001の3年目の更新審査を受審します。マニュアルが整備され、ダブルチェックも習慣化されつつあります。スタッフ一同が患者さんを守る為、病院を守る為、自分を守る為にISOが活用され始めていると実感しています。また、当院ISO推進委員の活動は活発で、常に身になる教育を目指しています。最近外来に、AED（自動体外式除細動器）を設置し、全体勉強会を開きました。これらの計画は、スタッフからの声で取り上げられて実現しています。

組織の向上が問われますが「JISART認定審査に合格しています」「ISO9001を取得しています」の認定を頂いても、勉強会を何度も開催しても、実践で使い物にならなければ意味がありません。確実に患者さんに質の高い医療が提供出来るような「正真正銘な認定証である」と評価されるために、日々の研鑽を怠らないよう努めていきたいと思います。

妊娠された方に質問紙をお渡しし、治療中の意見や感想を頂いています。「看護婦さんが私の質問に丁寧に答えてくれて嬉しかった」や「やさしい気遣いで治療継続できた」等の書き込みを拝見すると、患者さんの最も近くで携る仕事をさせて貰っている事に感謝すると共に、生殖医療を支えるチームとしての役割の重さを感じます。

スタッフ一同、一人でも多くの方が赤ちゃんを授かり、セント・ルカを卒業することを願ってやみません。

看護部 指山 実千代



秋の花

コスモスの花言葉

「乙女の真心」

「乙女の愛情」

## 一年を振り返って

### 培養室・検査室

最近、研究室に質問に来られる患者さんが増えました。「精子のデータについて詳しく知りたい」「今回凍結した胚の生存率は?」と内容は様々です。初めは、体外受精胚移植時のお話がおろそかになつてないかと、ドキッとしたが、よくよく聞くと、「今まで質問したいことはあったけど、なんとなく聞きづらくて」とのことでした。少しは質問しやすい研究室になってきたのかな?患者さんとの距離が近くなったのかな?とうれしく思った一瞬でした。

この1年間の研究室の目標は1.患者さんへの説明を充実させ、話しやすい、若しくは相談の機会を増やす手段を考え実行する。2.学会・研究活動を充実させる。3.力量・技術の向上の3本柱でした。セント・ルカの研究室では、卵子や精子を扱っているだけでは、だんだんとモノを扱っている感覚になつてしまうと考え、患者さんの苦しみや喜びを共有させていただき、心をこめて研究室の仕事をするために、体外受精胚移植前の胚の説明や、腹腔鏡検査の助手など、研究室の外で患者さんと接する機会を持つように心がけています。しかし、これまででは、研究室に質問に来られる方は、とても少ない状況でした。そこで、年間目標の一つに挙げ、「質問どうぞ」と掲示をし、体外受精胚移植前の胚の説明時には、「わからないことがあつたら、ぜひ質問に来てください」と声をかけるようにしました。これらの活動が功を奏したのか、冒頭のように、最近ではよく研究室に患者さんが質問に来てくれるようになりました。また、年齢別や胚のグレード別の2個移植の場合の多胎率、未移植胚の胚盤胞到達率などSarahBaseを使用した当院での成績など、より個々の患者さんに添つたお話の資料も充実しました。研究室より不妊相談士も1名誕生し、上記の目標1は達成できたと感じています。

学会・研究活動については、2007年は3題の海外での発表、12題の国内での学会発表を行い、5報の論文が掲載されました。山形大学大学院理工学研究科教授 阿部宏之先生 と共同研究をさせていただいている胚の呼吸量測定は、これまででは形態評価のみであった胚の評価法に加え、新たに信頼できる評価法となることが示されました。東北大学未来医工学治療開発センター准教授 有馬隆博先生のご指導の下、他施設に先駆けて注目したゲノムインプリントについて、未だ不明な点の多い流産の原因と精子のインプリント異常の関係を明らかにしました。2000年より基礎研究を行ってきた着床前診断は、日本産科婦人科学会に認可され、実施にまで至りました。これら研究活動も、患者さんの声を力に、ここまで至ることができたと思います。

力量・技術に関しては、顕微授精での受精率、変性率を毎月技術者毎に算出していますが、2008年4月に行われたJISARTの更新審査では、変性率が低いことを大変驚かれ褒めていただきました。審査員の方に、顕微授精のコツなど聞かれ、ラボスタッフの経験が長いことや顕微授精ができるまでの厳しい教育をお話ましたが、患者さんと接する機会が多い分、心をこめた仕事ができている証拠ではないかとも感じています。

2005年にISO9001を取得して、今年はJISARTの更新審査に合格しました。これ

らを取得し、維持するなかで、これまで以上に患者さんのために必要な研究室部門の役割を常に考えて目標を明確にもち、常に意識を高めることができるようになったのではないかと思います。これからも、個々の目標を掲げて研究室がまとまりをもち、患者さんとの距離が近い研究室であるように心がけ、進んでいきたいと思います。

培養室・検査室 大津 英子

当院では、毎年、日本福音ルーテル大分教会の牧師先生をお招きし、多目的ホールにてクリスマス会を開催しています。スタッフみんなで飾り付けを行い、アットホームな雰囲気の中行われます。

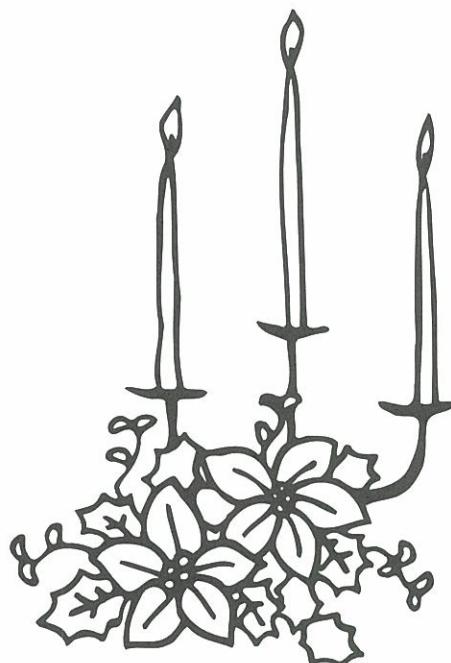
「ルカのクリスマス会に参加すると妊娠する」というジンクスがあり、たくさんの患者さんが参加され、スタッフによる演奏や賛美歌斉唱、牧師先生のお祈りで、心穏やかな時間を過ごしています。

1日でも早く、患者さんに赤ちゃんが授かりますよう、願いを込めて、スタッフ一同お祈りします。

冬の花

ポインセチアの花言葉

「聖なる願い」「祝福する」「清純」



## 一年を振り返って

### 受付

私にとってこの1年は激動の1年となりましたが、とても学ぶべきことの多い有意義な1年でもありました。

激動の1年になった1番大きな原因は、頼りにしていた上司が退職し、私が部署のトップとなってしまった事です。上司が退職すると決まったとたんに、上司が行っていた業務の全てを私に引き継がれる事になり、従来の業務にプラスして、覚えることが多く、四苦八苦している自分に、今まで私は何をしていたのかと思うと、自分がとても情けなく感じ、深く落ち込んだ時期でもありました。年末には、良い相棒だった後輩も結婚退職し、この1年で新人が2人も入社する事になりました。

新人がほぼ同時期に入社となり、私もトップとしては新人ですし、日頃の業務では絶対に間違えてはいけない、患者さんにご迷惑をかけてはならないと1日1日を必死で過ごしました。そんな私を、院長そして奥様をはじめ、スタッフ全員が一生懸命支えてくれて・・・、決して完璧に仕事をこなしているとは言えませんが、今の私や受付スタッフのやる気に繋がっています。

次に、ISO運営に関して、推進委員だった私が、上司の仕事を引き継いで事務局のスタッフに入る事になりました。事務局に入り、院内全体を見渡さなくてはならない事務局の仕事に戸惑いました。未だ不慣れではありますが、事務部門の代表として患者満足度向上のために頑張っていきたいと思っています。

2008年4月にはJISART施設認定更新審査（JISART RTAC）がありました。私にとっては初めての審査ですし、JISART RTACにとっても初めての日本人審査員による審査であり、前回無かった事務部門の審査も新設され、過去の審査を振り返ることができない私たちにとってはとても苦労の多い審査となりました。昨年の年末から万全の体制で望めるように準備を始め、部署マニュアルの見直しや作成を通じて、再認識する事ができ、私も初心に戻ることが出来ました。審査当日は、極度の緊張の中、泣きそうになりながら一日がスタートしました。事務部門の審査には、審査委員長の医師が審査をされました。審査はとても厳しく、規定に沿った内容が遵守されているかどうかの質問から始まり、実際の業務の場である受付での審査へと続き、緊張の連続でした。質問の中には、初診点数や再診点数、病名別の点数などを聞かれました。聞かれた点数に関しては、正しい回答ができたので良かったのですが、保険点数はレセコン入力を行った時点で自動入力されるのであまり気にしていませんでしたので、業務を行う上で、ただ入力するのではなく、点数を気にしながら業務を進める大切さを教えていただきました。当院の受付スタッフは全員医療事務の資格を持っていますが、流れ作業的に業務を行うのではなく、レセコンへの入力は点数や内容を気にしながら、患者さんを想いながら仕事を行っていかなくてはならないということを新人に伝えていきたいと思いました。

各部署すべての審査が終わり、総評では、施設レベルとして非常に高いレベルにある

とのお言葉をいただき、苦労や緊張で疲れはしましたが、受付スタッフ一同とても嬉しい審査となりました。

そして、この6月にはJISARTシンポジウムにも参加させていただくことになりました。前日には事務部門の勉強会も行われ、事務部門は2名参加させていただく予定です。多施設の状況を詳しく伺って、今後の受付そして事務部門運営の糧にしていければと考えています。

上司が退職して半年、受付責任者としてはまだまだ半人前ですが、スタッフみんなに支えてもらひながら、患者さんが少しでも明るい気持ちで安心して受診できますように、環境や雰囲気に気を配っていきたいと思います。

最後に2007年度不妊治療助成金の総件数が出ましたのでご報告いたします。

	人数	申請回数	助成金申請額
大分県	103	165	14,660,169
大分市	240	362	53,809,942
他県	14	19	1,815,434
県と市両方	39	47	9,393,021
大分市以外	2	2	110,352
合計	398	595	79,788,918

2007年度に助成金を申請した398名のうち、84名はタイミング療法やIUI（人工授精）等の治療内容で、残りの314名は高度生殖補助医療を受けられています。しかし、2007年度当院で高度生殖補助医療をお受けになった患者さんは416人で、100人弱の患者さんは助成金の恩恵に与れていないことになります。

患者さんの負担を考えると、不妊治療の保険適用、又は補助金の金額や回数の拡大を、私たちは望んでいます。

受付 越名 久美



## 一年を振り返って

### 情報処理室

セント・ルカ産婦人科本館 3F に生殖補助医療棟が完成するまでは「多目的ホール」として使用されていた広い場所があります。そこに 11 年前に情報処理室は開設され、現在は 3 名のスタッフで業務を行っています。

生殖補助医療を専門に行っているプライベートクリニックで、情報処理室を独立部門として開設し、更にスタッフを 3 人も雇用している施設は国内でも当院だけなのではないかと思われます。それだけこの部門の必要性や重要さを院長が理解してくださっているということに、私たちはいつも感謝しています。

2007 年は情報処理室にとって、とても忙しい 1 年となりました。

1 つ目は、情報処理室のメインの仕事である SarahBase の普及（生殖医療で発生するデータを正しくデータ蓄積を行い、患者さんの必要とするデータをフィードバックできる環境を整える）に関して、長年の努力が少しずつ実って来たのが実感できる 1 年となり、導入やデモンストレーションに全国を飛び回りました。ブース展示に関しても、2006 年度までは、受精着床学会と生殖医学会での展示でしたが、2007 年度からは日本哺乳動物卵子学会も増えて、導入された施設のスタッフの方が、どの学会でも自由に質問していただけるような環境が整いました。SarahBase を活用していただくためにも是非ともこのブース展示を利用していただければと考えております。

2 つ目は、念願のホームページリニューアルもなんとか外部業者さんを当てにせず、私たちだけで行う事ができました。ラボと看護部の一日を紹介するページが手付かずのまま残っているので、まずはこれを完成させる事を目標に、今後は患者さんの要望を取り入れつつ、デザイン重視もさることながら、患者さんに沿った患者さん目線を大切にしたホームページ作成を心がけていきたいと思います。

3 つ目は、突然届いた日産婦個別登録のお願いの手紙です。当院は開院当初よりデータの重要性を広く訴えてきました。嘘偽りの無いデータをいつでも患者さんに提供できるように SarahBase を整備して、生殖医学の報告がボランティアベースの時代から、毎年かかさず全てのデータを報告して来ました。ボランティアベースでの調査の分と通常の日産婦の登録の内容が一緒になってから、一括登録ができるということで、一括登録の許可をいただいていたのですが、突然個別登録のお願いの手紙が届き、ひとまず 2008 年分より試しに個別登録を行っているのですが、SarahBase 入力と日産婦の登録と重複入力の労力増加のため、四苦八苦している状態です。入力の遅れが直接患者さんの助成金申請用紙作成の遅れにつながるので、とても苦労しています。現在の個別登録では、体外受精周期に入ったものの、採卵に至らなかった患者さんはほとんどの施設が入力を行っていないのではないかと考えられます。どこの時点をもって体外受精周期に入ったかが、明確に指示されておらず、各施設の判断に任せられているのも原因かもしれません。私たちは個別登録に反対しているわけではありません。患者 ID と周期に入っ

た日付そして不妊因子だけを、まず個別登録で行って、登録 No.を取得し、その後のデータは期間を決めて一括登録を行えば、クリニックの労力も削減できますし、一括登録を行うことにより、自院で溜めたデータを再入力することなく間違いの無い状態で、データをおくれますので、学会にとっても信用できるデータとなるのではないかと考えております。今後もこの事を学会に訴えていけたらと思っています。

4つ目に、当院は JISART に加盟していますが、2007 年度更新審査より事務部門の審査も始まりました。当院では事務部門が受付と情報処理室に分かれており、受付と一致団結して更新審査対策を進めてまいりました。お互いの得意分野を合わせることによって、不得意分野は無くなります。事務部門の一致団結のおかげで、RTAC 審査委員の先生よりお褒めの言葉をいただきました。私たちは、この経験を誇りに思い、次回審査の時には更にレベルの上がった事務部門を見てもらうべく精進したいと考えています。

2008 年度には、JISART シンポジウム前日に事務部門スタッフだけの勉強会も開催されます。受付と情処より 1 名ずつ参加させていただく予定です。しっかり勉強して後輩たちに伝えていければと思っています。そして、このような勉強会に快く参加を許可してくださる院長に心から感謝しています。

5つ目は、体外受精と不妊治療の保険適用を求める国会請願です。昨年は患者団体の NPO 法人 Fine も不妊治療の薬剤に対する国会請願を行い、患者団体が動いてくれるようになったことに大きな喜びを感じています。いくら患者さんのためと訴えても、やはり私たちは医療者なので、悲しい事ですがいろいろな方面から数多くの批判をいただいている。悲しい事に、国会請願が私たちの宣伝ととらえられている方もいらっしゃいます。大分の郊外にあるこの病院で、全国的に宣伝活動をしたところで、どうなるというのでしょうか。交通の便も悪く、飛行機を降りてからバスで市内まで 1 時間、最終便も 18 時台で終了のこの大分で、国会請願を当院の宣伝と捉えられる事に大きな悲しみを感じています。署名簿の集計や、お手紙の作成・印刷・発送、全て忙しい通常業務の合間にっています。なにより、院長の考えとして、地方の大分の地にあり、雇用環境も悪く、平均年収も低い大分の患者さんがたくさんのストレスにさらされている、身体的なストレスや精神的なストレスは治療を受けている以上、授かるまではこのストレスは軽減できない。なので、経済的ストレスだけでも軽減したいという考え方の下、まずは当院の患者さんの負担が軽くなるように、患者さんの生活が少しでも楽になるようにと思い、始まった国会請願の活動です。6 回目の国会請願を控え、少しでも多くの施設の協力が得られるように、悲しみを感じながらも頑張ろうと思っています。

2008 年度がセント・ルカ産婦人科にとって素晴らしい 1 年になりますように、情報処理室 3 人、そして、事務部門と一致団結して頑張っていきたいと考えています。

情報処理室 工藤 由香

## 一年を振り返って

### 厨房

この度、「厨房からも一年を振り返ってを書いて下さい」と依頼され、とても戸惑いましたが、院長の一言で、このページを使わせていただく事になりました。何から話せば良いのか、想像もつきませんが、私なりにこの1年を思い出し、書かせていただきます。

厨房は、宇津宮事務長の下、家庭料理を基本として、「ゆったりとした気持ちで食べていただけるように」をコンセプトに、常勤調理士2名、週1回のパートさん1名の計3名で患者さんのお食事を、心を込めて作っております。

患者さんとは直接接する機会がなく、何事にも裏方でサポートするという、地味な職種ではありますが、たくさんの方がいろいろな悩みや不安をかかえ、治療の為にこのセント・ルカに来られているという事を思うと、食する事からですが、少しでも皆様の体造りにお役に立てればと頑張っています。

ときおり患者さんから励ましの言葉、お礼や感謝の気持ちを、書面を通じて目にすることがあります、とても嬉しく涙する事があります。このような裏方の仕事でも意義ある仕事かなと、少し誇りを持つ事ができます。

年間を通じ、四季折々の行事と共に、私達の出番があります。昔からの行事は、一つ一つに大きな意味がある事なので、若い方にもわかつていただく為、大切に守り続けていかなければなりません。

さて、昨年一年は大きな転機と共に目まぐるしい一年となりました。開院以来勤務していた主任が、定年を機に11月いっぱい第一線から退いてしまいました。退職を決めたと聞いた時は、今にも沈みそうな船に乗っているような恐怖と、怖くて辛い日々が続きましたが、そんな事ばかり思っていても時は進んでいきます。そのうち新人の面接も始まり、今回初めて面接の場に立ち合わせていただくことになりました。事務長の傍らに座っていただけですが、第三者として見せていただき、話を聞いていると、その人の生活リズムや話し方で、雰囲気や性格がなんとなく想像でき、とても貴重な経験をさせていただきました。そして、事務長のご尽力により、すばらしいパートナーに出会う事となりました。

私も初心に戻り、新たな気持ちでやらなければと思いました。しかし、長い月日をかけて築いてきた先輩方の味を出せるのか、守っていけるのか、とても大きな不安もありましたが、「そんな事ばかり考えていたら進歩がない」という院長の助言で目が覚めました。そんな時、30代の若い風が吹いて来ましたので、私もその力をかりて、多くの患者さんに少しでも満足していただけるよう、目標にしていきたいと思います。

厨房 矢野 千恵美

# 診療統計

# 外来患者および妊娠結果の内訳

(2007.12.31 現在)

## 1. 当院の患者数

1) 開院(1992.6.3) ~ 本年(2007.12.31)までの外来患者数

16,511 人

(内訳) 男性 5,605 人 (33.9%) (平均年齢 33.5 才)  
正常 2,648 人 (47.3%) 未検査 24 人 (0.4%)  
異常 2,933 人 (52.3%)

女性 10,906 人 (66.1%) (平均年齢 31.0 才)

・ 挙児希望の女性 8,209 人 (75.3%) (平均年齢 31.1 ± 4.4 才)  
・ 妊娠件数 4,718 件 (平均年齢 31.6 ± 4.2 才)  
・ 妊娠に至らなかった女性 4,078 人

2) 妊娠率(患者あたり) 50.3% { (8,209 - 4,078) / 8,209 }

3) 治療を途中で諦めた女性 3,720 人 (45.3%)

A) 諦めざるをえなかった人(無精子症,早発閉経,高齢など) 750 人 (9.1%)  
B) いつの間にか諦めた人 2,970 人 (36.2%)

4) 実妊娠率(A を除く患者あたり) 78.9% { (8,209 - 4,078) / 8,209 - (3,720 - 750) }

5) 実妊娠率(A,B を除く患者あたり) 92.0% { (8,209 - 4,078) / (8,209 - 3,720) }

## 2. 妊娠の内訳

他院へ紹介済	3,499 例	(74.16%)
流産	967 例	(20.50%)
子宮外妊娠	138 例	(2.92%)
胞状奇胎	14 例	(0.30%)
中絶	1 例	(0.02%)
不明	99 例	(2.10%)
計	4,718 例	(100%)

## 3. 出産結果 (他院へ紹介済の 3,499 例中、妊娠結果が判明している 3,094 例について)

### 1) 妊娠結果

満期産	2,669 例	(86.26%)
満期産+死産*	2 例	(0.07%)
満期産+外妊*	1 例	(0.03%)
早産	329 例	(10.63%)
早産+死産*	8 例	(0.26%)
過期産	15 例	(0.49%)
死産	31 例	(1.00%)
流産	31 例	(1.00%)
流産+死産*	1 例	(0.03%)
奇形中絶	4 例	(0.13%)
人工妊娠中絶	3 例	(0.10%)
計	3,094 例	(100%)

\* 双胎で 2 児の妊娠結果が異なる例

## 2) 多胎妊娠について

単胎	2,779 例	(89.8%)	2,779 児
双胎	299 例	(9.7%)	598 児
品胎	16 例	(0.5%)	48 児
計	3,094 例	(100%)	3,425 児

## 3) 出生児の状態

正常	2,614 児	(76.3%)
低体重児	623 児	(18.2%)
異常(死産等含む)	188 児	(5.5%)
(うち奇形を含む主な異常)	(109 児)	(3.2%)
計	3,425 児	(100%)

## 4. 妊娠に至った主たる有効治療

ART(生殖補助医療)全体	1,836 例	(38.9%)
IVF-ET(体外受精)	611 例	(12.95%)
MF-ET(顕微授精)	695 例	(14.73%)
CRYO-ET(凍結胚移植)	487 例	(10.32%)
GIFT(配偶子卵管内移植法)	38 例	(0.81%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)	5 例	(0.11%)
ART(生殖補助医療)以外	2,882 例	(61.1%)
IUI(選別精子子宮内注入法)	721 例	(15.28%)
HMG-HCG, Gn-RHa	413 例	(8.75%)
クロミフェン	396 例	(8.39%)
クロミフェン-HMG	3 例	(0.06%)
セキソビット-HCG	1 例	(0.02%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	589 例	(12.48%)
HSG(子宮卵管造影法)直後	305 例	(6.47%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	318 例	(6.74%)
リンパ球免疫療法	15 例	(0.32%)
その他	121 例	(2.57%)
計	4,718 例	(100%)

(2007/12/31 セント・ルカ産婦人科)

## 外来・入院数 (2007.1.1～2007.12.31)

	入 院	外 来
1月	102	1,825
2月	116	1,839
3月	147	2,336
4月	121	1,969
5月	119	1,796
6月	193	2,313
7月	150	2,269
8月	168	2,135
9月	101	1,672
10月	177	2,120
11月	163	2,122
12月	145	2,013
合計	1,702	24,409

**入院数** (2007.1.1～2007.12.31)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
<b>手術入院</b>													
腹腔鏡手術	22	16	16	17	17	16	20	21	16	20	19	19	219
子宮内容除去術 (流産のため)	3	4	3	9	4	7	5	9	9	6	6	9	74
子宮筋腫核出術	5	2	7	3	4	2	7	2	3	2	5	2	44
卵胞穿刺術	6	1	3	0	1	3	0	2	1	1	1	0	19
経頸管子宮筋腫切除術 (TCR)	0	3	1	0	1	2	1	3	1	1	1	0	14
子宮内膜搔爬術	0	0	1	0	3	1	0	2	1	0	0	0	8
腹腔鏡下 子宮外妊娠手術	1	1	2	0	1	0	3	0	0	0	0	1	9
開腹手術 (子宮全摘出術)	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
卵巢腫瘍核出術	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
開腹手術 (双角子宮形成術)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
減胎手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	37	28	33	31	31	31	36	39	31	30	32	31	390

<b>安静入院</b>													
卵巢過剰刺激症候群	0	2	0	1	1	0	4	3	0	6	3	2	22
切迫流産安静	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
その他	0	0	0	0	0	2	1	0	2	1	0	0	6
合 計	1	2	0	1	1	2	5	3	2	7	4	2	30

<b>体外受精入院</b>													
採卵	29	46	57	42	39	75	52	50	23	71	48	49	581
胚移植	13	24	31	24	23	48	25	33	16	32	33	24	326
凍結胚移植	22	16	26	23	25	37	32	43	29	37	46	38	374
GIFT,ZIFT,TET	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合 計	64	86	114	89	87	160	109	126	68	140	127	112	1,282

入院総計	102	116	147	121	119	193	150	168	101	177	163	145	1,702
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

## 妊娠数 (1992.6.3~1996.12.31)

	周期	1992	1993	1994	1995	1996
体外受精 胚移植	採卵	63	213	266	269	279
	移植	50	153	200	221	247
	妊娠	2 ( 4.0 % )	23 ( 15.0 % )	51 ( 25.5 % )	61 ( 27.6 % )	55 ( 22.3 % )
顕微授精 胚移植	採卵	0	33	167	246	239
	移植	0	20	130	210	222
	妊娠	0 ( 0.0 % )	1 ( 5.0 % )	16 ( 12.3 % )	36 ( 17.1 % )	36 ( 16.2 % )
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融解周期	0	5	7	20	52
	移植	0	5	7	19	52
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	1 ( 14.3 % )	0 ( 0.0 % )	6 ( 11.5 % )
配偶子 卵管内移植	採卵	2	43	30	17	8
	移植	1	42	30	17	8
	妊娠	0 ( 0.0 % )	10 ( 23.8 % )	10 ( 33.3 % )	5 ( 29.4 % )	4 ( 50.0 % )
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	4	10
	移植	0	0	0	4	10
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	2 ( 20.0 % )
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	7	2	10	2
	移植	0	6	2	9	2
	妊娠	0 ( 0.0 % )	1 ( 16.7 % )	0 ( 0.0 % )	1 ( 11.1 % )	0 ( 0.0 % )
顕微授精胚 卵管内移植	採卵	0	1	1	8	0
	移植	0	1	1	8	0
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	3 ( 37.5 % )	0 ( 0.0 % )
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )
小計	採卵	65	297	466	554	538
	凍結融解周期	0	5	7	20	52
	移植	51	227	370	488	541
	妊娠	2 ( 3.9 % )	35 ( 15.4 % )	78 ( 21.1 % )	106 ( 21.7 % )	103 ( 19.0 % )

ART*以外の妊娠数	96	215	214	247	203
妊娠総数	98	250	292	353	306

\* 生殖補助医療

## 妊娠数 (1997.1.1～2002.12.31)

	周期	1997	1998	1999	2000	2001	2002
体外受精 胚移植	採卵	329	282	253	154	119	172
	移植	276	225	224	121	93	123
	妊娠	54 ( 19.6 % )	48 ( 21.3 % )	62 ( 27.7 % )	37 ( 30.6 % )	41 ( 44.1 % )	41 ( 33.3 % )
顯微授精 胚移植	採卵	224	265	342	317	377	344
	移植	192	227	276	238	283	215
	妊娠	35 ( 18.2 % )	31 ( 13.7 % )	34 ( 12.3 % )	50 ( 21.0 % )	63 ( 22.3 % )	45 ( 20.9 % )
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	90	122	107	170	195	255
	移植	88	121	93	153	140	171
	妊娠	15 ( 17.0 % )	29 ( 24.0 % )	23 ( 24.7 % )	32 ( 20.9 % )	48 ( 34.3 % )	48 ( 28.1 % )
配偶子 卵管内移植	採卵	15	19	6	9	1	1
	移植	15	19	6	9	1	1
	妊娠	4 ( 26.7 % )	2 ( 10.5 % )	1 ( 16.7 % )	2 ( 22.2 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )
接合子 卵管内移植	採卵	3	11	4	10	1	0
	移植	3	11	4	10	1	0
	妊娠	0 ( 0.0 % )	2 ( 18.2 % )	1 ( 25.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )
体外受精胚 卵管内移植	採卵	2	0	0	0	0	0
	移植	2	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	1	5	0	1	0	0
	移植	1	5	0	1	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 % )	2 ( 40.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融 解周期	1	2	0	0	0	0
	移植	1	2	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 % )	1 ( 50.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )
小計	採卵	574	582	605	491	498	517
	凍結融 解周期	91	124	107	170	195	255
	移植	578	610	603	532	518	510
	妊娠	108 ( 18.7 % )	115 ( 18.9 % )	121 ( 20.1 % )	121 ( 22.7 % )	152 ( 29.3 % )	134 ( 26.3 % )

ART以外の妊娠数	177	177	153	169	169	168
妊娠総数	285	292	274	290	321	302

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

## 妊娠数 (2003.1.1～2007.12.31)

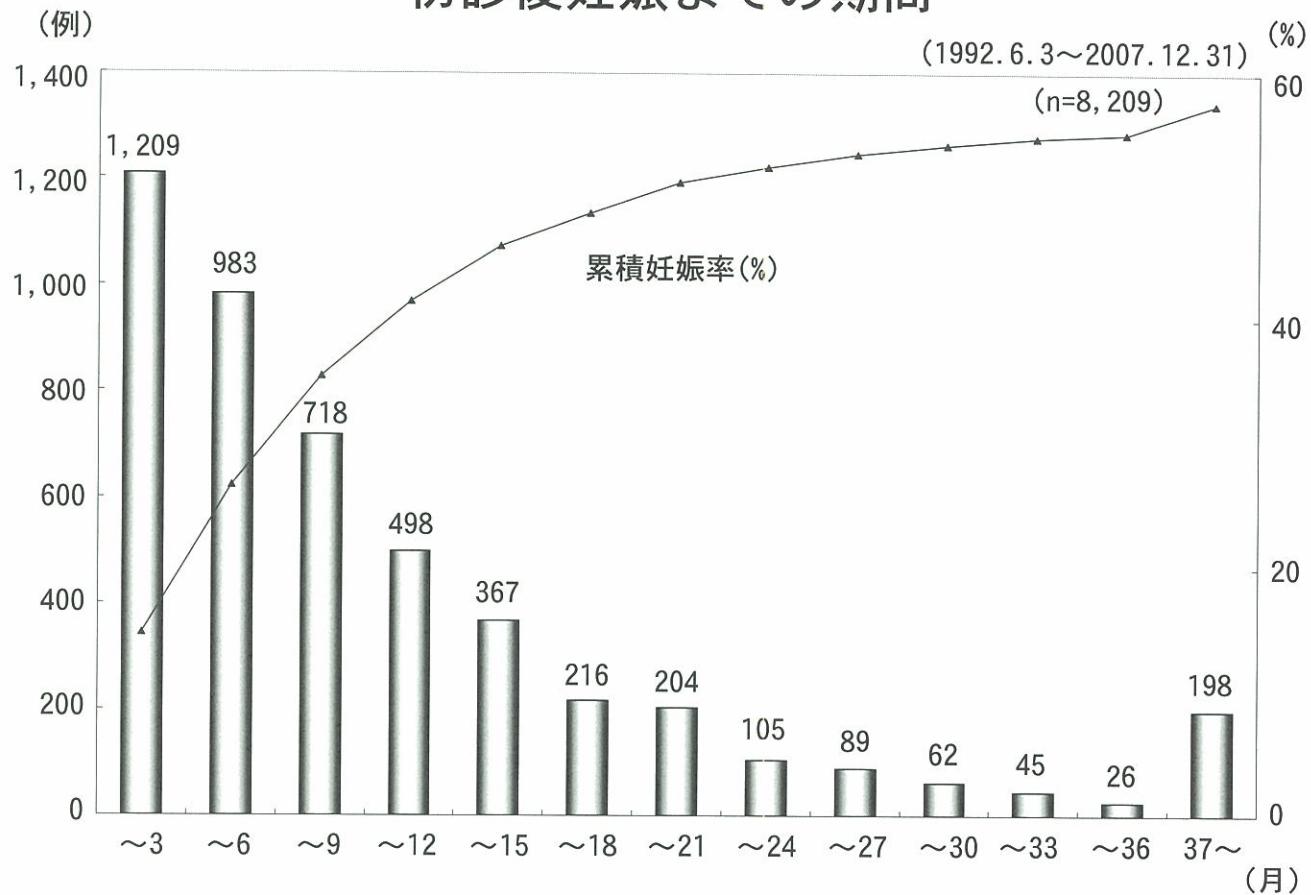
	周期	2003	2004	2005	2006	2007	合計
体外受精 胚移植	採卵	139	103	62	98	155	2,956
	移植	100	69	38	48	89	2,277
	妊娠	36 ( 36.0 % )	25 ( 36.2 % )	17 ( 44.7 % )	20 ( 41.7 % )	36 ( 40.4 % )	609 ( 26.7 % )
顕微授精 胚移植	採卵	420	436	451	414	424	4,699
	移植	279	328	297	267	237	3,421
	妊娠	65 ( 23.3 % )	72 ( 22.0 % )	74 ( 24.9 % )	74 ( 27.7 % )	58 ( 24.5 % )	690 ( 20.2 % )
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融解周期	238	224	267	260	399	2,411
	移植	185	192	247	246	374	2,093
	妊娠	37 ( 20.0 % )	47 ( 24.5 % )	60 ( 24.3 % )	58 ( 23.6 % )	82 ( 21.9 % )	486 ( 23.2 % )
配偶子 卵管内移植	採卵	1	1	0	0	0	153
	移植	1	1	0	0	0	151
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	38 ( 25.2 % )
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	1	44
	移植	0	0	0	0	1	44
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	5 ( 11.4 % )
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0	23
	移植	0	0	0	0	0	21
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	2 ( 9.5 % )
顕微授精胚 卵管内移植	採卵	0	1	0	0	0	18
	移植	0	1	0	0	0	18
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	5 ( 27.8 % )
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0	3
	移植	0	0	0	0	0	3
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	1 ( 33.3 % )
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	2	6	0	0	8
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )	0 ( 0.0 % )
小計	採卵	560	543	519	512	580	7,901
	凍結融解周期	238	224	267	260	399	2,414
	移植	565	591	582	561	701	8,028
	妊娠	138 ( 24.4 % )	144 ( 24.4 % )	151 ( 25.9 % )	152 ( 27.1 % )	176 ( 25.1 % )	1,836 ( 22.9 % )

ART*以外の妊娠数	157	167	203	181	186	2,882
妊娠総数	295	311	354	333	362	4,718

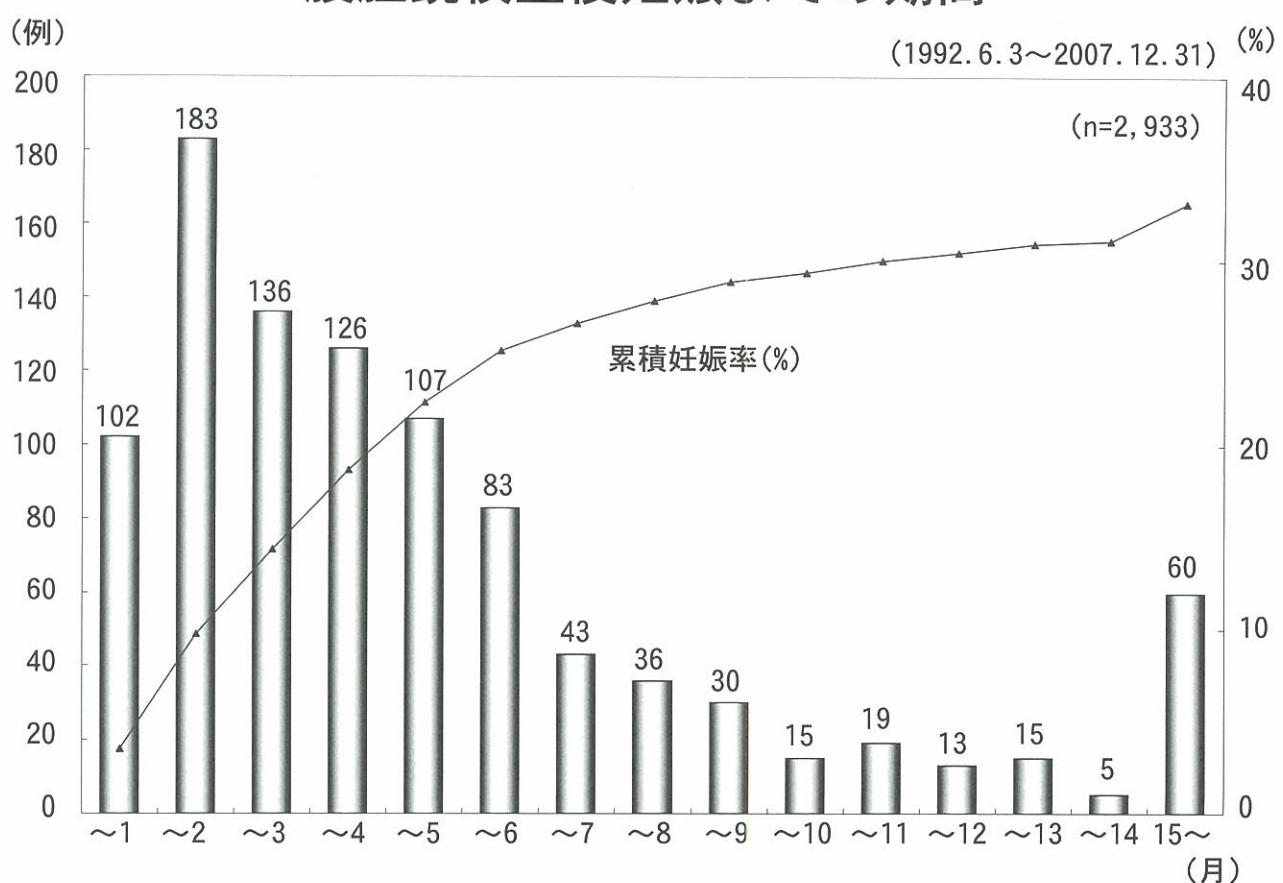
\* 生殖補助医療

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

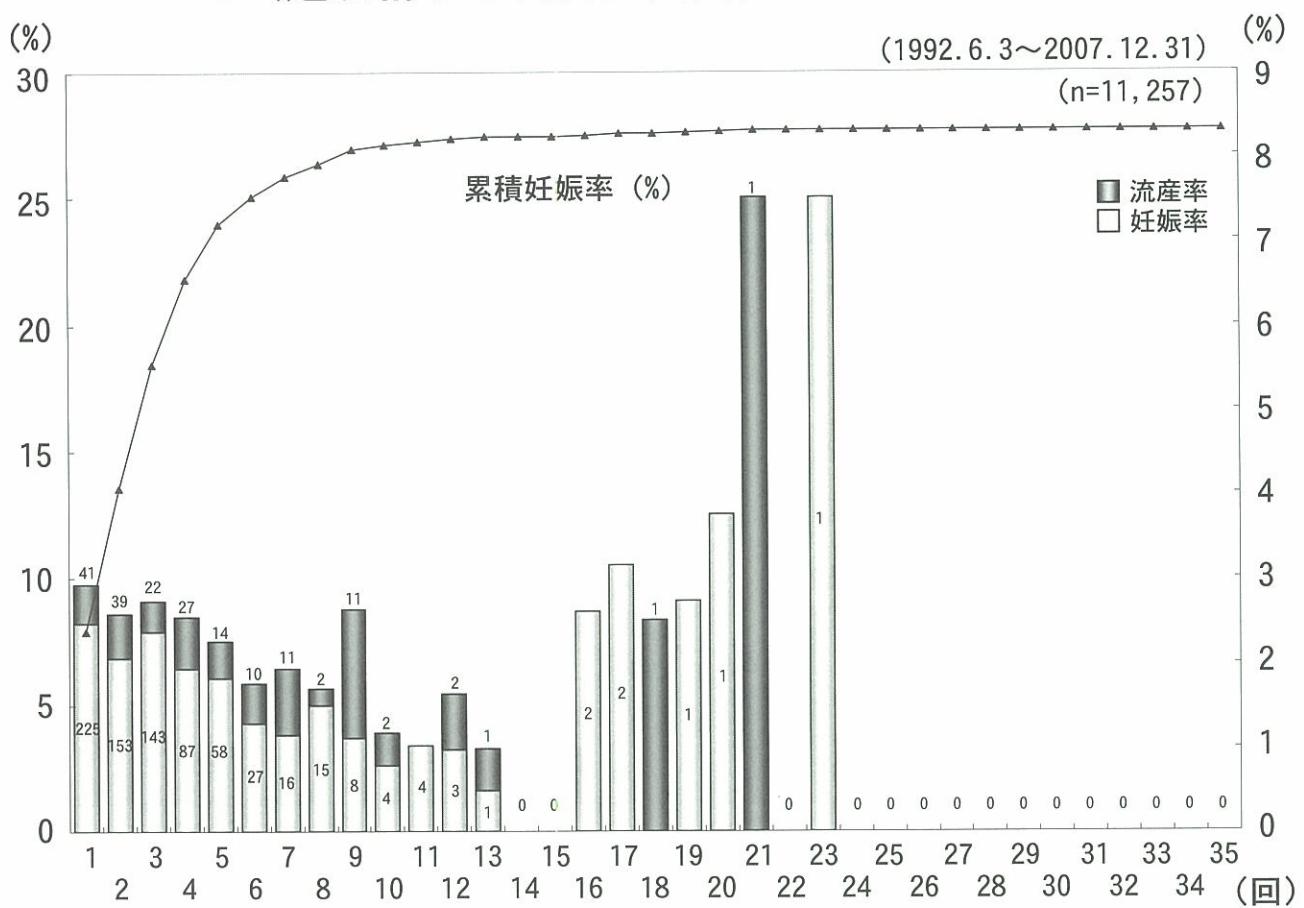
## 初診後妊娠までの期間



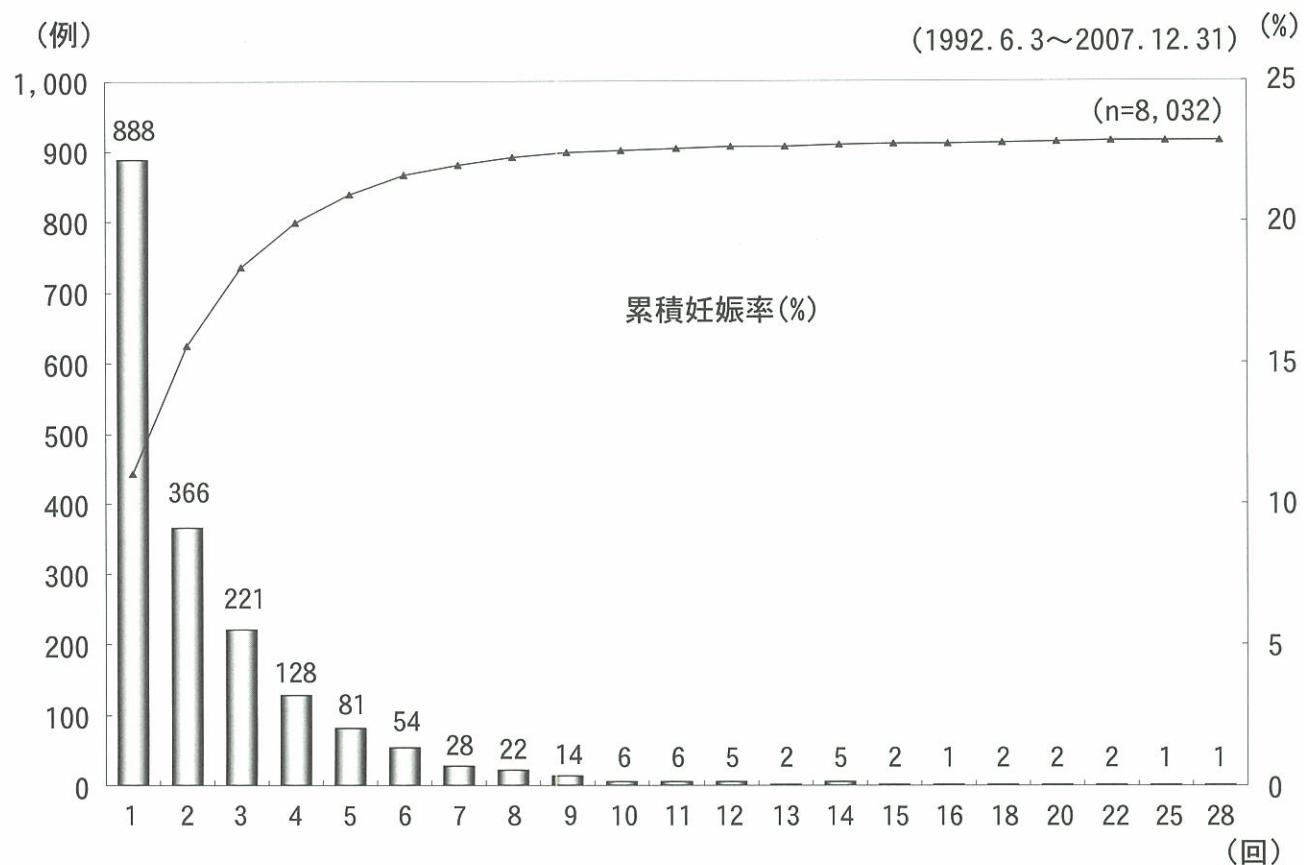
## 腹腔鏡検査後妊娠までの期間



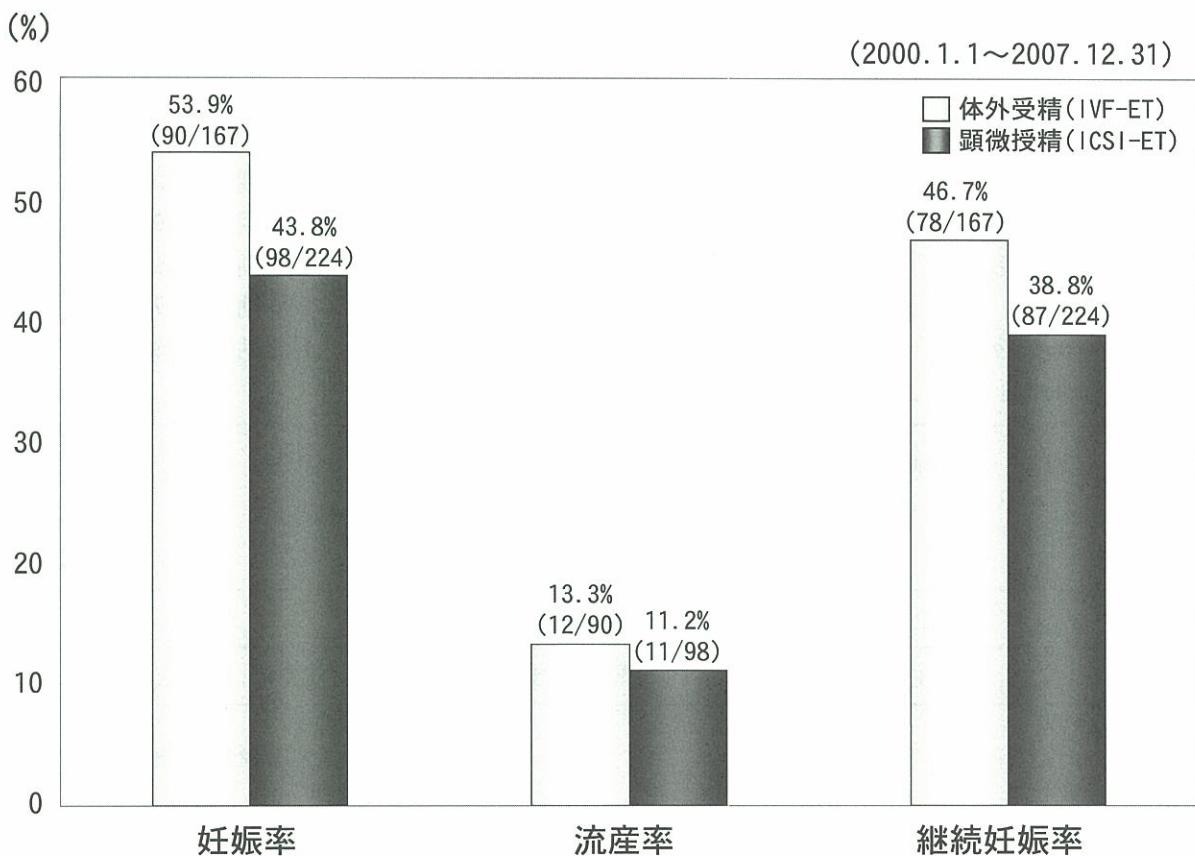
## IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率



## ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠



## 35歳未満・体外受精1回目の妊娠率



## ART(生殖補助医療)による妊娠 (1992.6.3～2007.12.31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり %)	妊娠周期数 (移植あたり %)	流産周期数 (妊娠あたり %)
IVF-ET	2,979	2,298 ( 77.1 % )	611 ( 26.6 % )	150 ( 24.5 % )
MF-ET (男性因子 以外も含む)	4,725	3,439 ( 72.8 % )	695 ( 20.2 % )	204 ( 29.4 % )
(ICSI)	4,337	3,341 ( 77.0 % )	684 ( 20.5 % )	199 ( 29.1 % )
GIFT	153	151 ( 98.7 % )	38 ( 25.2 % )	13 ( 34.2 % )
ZIFT	44	44 ( 100 % )	5 ( 11.4 % )	1 ( 20.0 % )
CRYO-ET	2,414	2,096 ( 86.8 % )	487 ( 23.2 % )	122 ( 25.1 % )
ART.total	10,315	8,028 ( 77.8 % )	1,836 ( 22.9 % )	490 ( 26.7 % )

# ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況

(1992.6.3～2007.12.31)

出産周期	1,153周期	妊娠結果が判明している1,153周期に限る		
妊娠結果				
満期産	911周期 ( 79.01% )	死産	16 周期 ( 1.39% )	
満期産、死産*	2周期 ( 0.17% )	流産	16 周期 ( 1.39% )	
満期産、外妊*	1周期 ( 0.09% )	流産、死産*	1 周期 ( 0.09% )	
早産	194周期 ( 16.82% )	奇形中絶	2 周期 ( 0.17% )	
早産、死産*	6周期 ( 0.52% )	人工妊娠中絶	1 周期 ( 0.09% )	
過期産	3周期 ( 0.26% )			
多胎妊娠について	1,386児	単胎	931 例 ( 80.7% )	931 児
		双胎	211 例 ( 18.3% )	422 児
		品胎	11 例 ( 1.0% )	33 児
低体重児	376児 ( 27.1% )			
異常児	108児 ( 7.8% )	うち奇形を含む主な異常	64児 ( 4.6% )	

\* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

## 異常児の詳細 (1992.6.3～2007.12.31)

主な異常	109 児	109 児／3,425 児 ( 3.2% )		うち ART*児: 64児／1,386児 ( 4.6% ) ART以外児: 45児／2,039児 ( 2.2% )	
		ART	ART以外	ART	ART以外
染色体異常	9 児	5 児	ヘルニア	2 児	1 児
脳・神経系異常	8 児	9 児	腎/膀胱欠損	1 児	0 児
心臓血管系異常	7 児	13 児	鎖肛	0 児	1 児
胸郭低形成	1 児	0 児	先天性四肢形成異常	1 児	0 児
気胸	0 児	1 児	先天性股関節脱臼	1 児	0 児
肺出血	1 児	0 児	膝関節異常	1 児	0 児
縦隔気腫	1 児	1 児	先天性白内障	1 児	0 児
腸管異常	2 児	1 児	先天性鼻涙管閉塞	1 児	1 児
水腎水尿管症	1 児	0 児	先天性食道閉鎖	1 児	0 児
甲状腺機能低下症	2 児	2 児	外耳道閉鎖	0 児	1 児
胎児水腫	2 児	1 児	Cornelia de Lange症候群	1 児	0 児
部位不明腫瘍	1 児	0 児	Russell-Silver症候群	0 児	1 児
口唇裂・口唇蓋裂	9 児	3 児	Sturge-Weber症候群	0 児	1 児
多指症	2 児	1 児	奇形中絶	2 児	1 児
合指趾・裂手症	1 児	0 児	出産後死亡	5 児	1 児

\* 生殖補助医療

セント・ルカ産婦人科  
**1年のあゆみ**

# セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ

(2007.1.1~2007.12.31)

学会発表	39題
院長	4
看護部	14
培養室・検査室	20
事務部	1
学会講演会参加	40回
研修会	15回
論文	10編
著書（共著）	7編 3名
主催講演	5回
セント・ルカセミナー	1
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	4 総参加人数 307名
講演・講師	7回
院長	4
看護部	2
培養室・検査室	1
不妊カウンセラー活動	31回
新患教室	8 総参加人数 445名
体外受精教室	12 総参加人数 591名
ガーネットサークル	4 総参加人数 22名
オリーブの会	6 総参加人数 39名
治療を終結した方のお話	1 総参加人数 12名
院内講習会	2回
京都大学名誉教授、醍醐渡辺クリニック不妊センター長 森崇英先生ご来院・ご指導	1回
東北大学21世紀COEプログラム独立COEフェロー客員助教授 有馬隆博先生ご来院・ご指導	1回
不妊治療の保険適用に向けての活動	5回

# 行事一覧(1)

---

- 2007 1.4 新年会(セント・ルカ多目的ホール)  
1.4 新職員 井澤里砂さん(看護部)  
1.9 第 95 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  
1.10 ISO9001 委員会会議 日本 LCA 田中繁充氏ご来院  
1.13 第 21 回 新患教室 参加者 62 名 参加<城戸、井澤、河野、篠田、指山>  
1.13 第 12 回 日本臨床エンブリオロジスト学会(岡山) 参加<佐藤晶、大津>  
1.13 JISART 倫理委員会(東京) 参加<上野>  
1.17 広島 HART クリニック(広島) SarahBase 納入 <工藤由>  
1.20 日本不妊予防協会設立記念フォーラム(東京) 参加<酒井、篠田、門屋、上野、院長>  
1.20 JISART ガイドライン改定打合せ(東京) 参加<院長>  
1.20 東北大学大学院医学系研究科(宮城) 有馬隆博先生との TS 細胞樹立のための基礎実験  
参加<佐藤晶>  
1.21 第 4 回 日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(東京) 参加<篠田、院長>  
ポスターセッション座長:(上野桂子)  
発表:「CMI 健康調査による不妊症患者の健康状態について」(酒井操)  
「不妊治療終結に対する患者の意識調査」(門屋英子)  
1.22 日本産科婦人科学会倫理委員会(東京) 出席<院長>  
1.23 アンジェリック クリニック浦田(大分)院長 浦田憲一郎先生 ミーティング見学のためご来院  
1.24 加藤レディースクリニック(東京)院長 加藤修先生 院内見学のためご来院  
1.27 第 117 回 体外受精教室 参加者 70 名 参加<桑野、三重野、酒井、斎高>  
1.27 第 30 回 ガーネットサークル OG 1 名、参加者 9 名  
1.27 大分放送(OBS)より電話取材  
1.31 東京 HART クリニック(東京)院長 岡親弘先生、ラボ 和田滋子先生、受付 志摩圭子先生  
SarahBase 見学のためご来院  
2.1 防災訓練(緊急連絡網)  
2.1 新職員 深田留美さん(看護部)  
2.2 朝日新聞大阪本社生活文化部 松尾由紀さん 取材のためご来院  
2.3 第 1 回 第 3 期・第 4 期合同オリーブの会 参加者 9 名  
2.7 第 4 回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会  
倫理委員:上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、大塚三千代先生  
(大分大学医学部附属病院 看護部長)、緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、指山実千代  
(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師)  
(五十音順)
- 2.10 第 29 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 101 名  
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>  
参加<足立小、渡邊、佐藤千、深田、井澤、後藤裕、河野、足立直、篠田>  
2.12 JISART 倫理委員会(東京) 参加<上野>  
2.13 第 96 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  
2.14 時代が求める情報セキュリティと内部統制 参加<平松、工藤由>  
2.16 「悪性腫瘍未婚女性患者における卵子採取、ならびに凍結保存の臨床研究」についての講演会  
(福岡) 参加<那須、熊迫>  
講演:「A-PART 日本支部における悪性腫瘍未婚女性患者からの  
卵子採取凍結保存に対する取組」(院長)  
2.17 第 118 回 体外受精教室 参加者 66 名 参加<深田、井澤、三重野、酒井、斎高>  
2.19 新職員 山路美和さん(情報処理室)

## 行事一覧(2)

---

- 2007 2.19 朝日新聞大阪本社生活文化部 松尾由紀さん 取材のためご来院  
2.22 新会計システム稼動  
2.25 日本生殖医療エンジニアリング研究会 第2回学術集会(東京) 参加<佐藤久、佐藤晶>  
ランチョンセミナー講演:「良好卵子を得るための2、3の工夫」(院長)  
2.25 第12回 FROM 妊娠・出産をめぐる自己決定権を支える会(東京) 参加<酒井、門屋>  
2.27 職員旅行(グアム組 第1班) 参加<平松、工藤由、梅田、佐藤久、那須、佐藤晶、熊迫、  
長木、足立直、松元、関、原井、指山、上野、院長>  
2.27 職員旅行(香川組) 参加<矢野、後藤江、渡邊、佐藤千、大津、桑野、後藤裕、三重野、二宮、  
河野、赤嶺>  
2.27 第92回大分県周産期研究会 参加<足立小、越名、城戸、後藤香、深田、井澤、斎高、篠田>  
3.1 大分市防火管理協会 防火講演会 参加<斎高、篠田>  
3.3 第53回 養親の希望者のための連続講座(1)(大阪) 参加<上野>  
3.4 第2回 日本レーザーリプロダクション研究会(東京) 参加<院長>  
3.4 職員旅行(グアム組 第2班) 参加<城戸、後藤香、酒井、篠田、門屋>  
3.10 第22回 新患教室 参加者66名 参加<山路、熊迫、深田、井澤、後藤、河野、指山>  
3.10 第53回 養親の希望者のための連続講座(2)(大阪) 参加<上野>  
3.10 第21回 日本助産学会学術集会(別府)  
発表:「妊娠中のカフェイン摂取の実態と喫煙との関連」(桑野紀子)  
3.13 第97回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  
3.17 第119回 体外受精教室 参加者50名 参加<山路、深田、井澤、桑野、酒井、斎高>  
足立信也衆議院議員、梶原九州男爵議会議員ご来院 体外受精教室にて保険適用に向けてのお話  
3.17 第53回 養親の希望者のための連続講座(3)(大阪) 参加<上野>  
3.19 中津市民病院(大分) Bat-suren Choijamts 先生見学のためご来院  
3.20 ISO9001マネジメントレビュー 日本LCA 田中繁充氏ご来院  
3.24 JISART サンダース教授へのお礼を兼ねた会食(東京) 参加<院長>  
3.25 第17回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>  
3.25 JISART 倫理委員会(東京) 参加<上野>  
3.29 中央レディスクリニック(福岡)、蔵本ウィメンズクリニック(福岡)  
SarahBase デモンストレーション <山路、工藤由>  
3.31 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)  
4.7 第23回 新患教室 参加者51名 参加<山路、深田、井澤、後藤裕、河野、足立直、指山>  
4.10 第98回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  
4.14 第31回 ガーネットサークル OG1名、参加者5名  
4.20 第25回 大分市医師会産婦人科~内分泌・不妊・代謝~懇話会  
参加<山路、平松、足立小、梅田、越名、佐藤久、那須、佐藤晶、城戸、熊迫、大津、深田、  
井澤、松元、関、篠田、指山、上野、院長>  
「レプチンと生殖機能」  
(三重大学 医学部大学院医学系研究所 病態解明医学講座 生殖病態生理学  
教授 佐川典正先生)  
4.21 第120回 体外受精教室 参加者40名 参加<山路、深田、井澤、桑野、酒井、松元、斎高>  
4.21 吸收式冷温水器取替工事

## 行事一覧(3)

---

- 2007 4.22 第 64 回 日本生殖医学会九州支部会(福岡) 参加<指山、院長>  
発表 :「マウス胚を用いた採卵時における麻醉薬が及ぼす毒性の検討」(那須恵)  
「電気化学的呼吸能計測によるヒト胚のクオリティー評価」(後藤香里)  
「CMI 健康調査による不妊症患者の健康状態について」(酒井操)  
「女性患者の意識調査～不妊原因による比較検討～」(篠田多加子)  
「妊娠に至らず治療終結を決意した元患者を囲む会」を開催して」(上野桂子)
- 4.22 日本哺乳動物卵子学会 生殖補助医療管理胚培養士試験(東京) 参加<大津>
- 4.24 第 5 回 国会請願のため、請願書及び 27 都道府県・49 施設・13 個人(7752 人)分の署名簿を衆議院議員 9 名・参議院議員 4 名へ発送
- 4.26 蔵本ウィメンズクリニック(福岡)施設見学 参加<後藤香、熊迫>
- 4.28 第 2 回 第 3 期・第 4 期合同オリーブの会 参加者 8 名
- 4.29 International Federation of Fertility Societies XIX World Congress on Fertility & Sterility (Durban, SOUTH AFRICA) 参加<工藤由、大津>  
ポスター発表 :「Necessity Of Standardization Of The Report For An ART In Japan」(工藤由香)  
「The Relationship Between The Blastomere Size And Aneuploidy In Human」(大津英子)
- 5.10 中央レディスクリニック(福岡)院長 結城裕之先生、看護師 酒井あゆみ先生・後藤千賀子先生、検査技師 永浦ひとみ先生、事務 松尾理恵先生 SarahBase 導入のための施設見学の為ご来院
- 5.12 第 18 回 JISART 臨時理事会(東京) 参加<院長>
- 5.14 第 121 回 体外受精教室 参加者 23 名 参加<山路、深田、井澤、三重野、齊高>
- 5.14 大谷産婦人科(兵庫)PGD 研修 参加<城戸、大津>
- 5.15 英ウィメンズクリニック(兵庫)施設見学 参加<城戸、大津>
- 5.15 第 99 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 5.16 ファティリティクリニック東京(東京)SarahBase 納入 <山路、工藤由>
- 5.18 東北大学大学院医学系研究科(宮城)有馬隆博先生より実験指導 参加<佐藤晶>
- 5.19 第 30 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 66 名  
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>  
参加<山路、工藤由、梅田、越名、城戸、深田、井澤、後藤裕、松元、篠田>
- 5.26 第 48 回 日本哺乳動物卵子学会(山梨) 参加<佐藤久、院長>  
発表 :「マウス胚を用いた採卵時における麻醉薬が及ぼす毒性の検討」(那須恵)  
「走査型電気化学顕微鏡を用いたヒト胚の呼吸量計測とクオリティー評価」(後藤香里)
- 5.26 第 48 回 日本哺乳動物卵子学会(山梨)SarahBase ブース展示 参加<山路、工藤由>
- 5.26 日本哺乳動物卵子学会定例理事会(山梨) 参加<院長>
- 6.2 第 4 回 JISART 看護教育セミナー(大阪) 参加<後藤裕、門屋、指山>
- 6.2 第 19 回 JISART 拡大理事会(大阪) 参加<院長>
- 6.3 第 5 回 JISART シンポジウム(大阪) 参加<熊迫、長木、後藤裕、門屋、指山、院長>
- 6.3 パパ・ママになりたい人のためのセミナー～不妊症の正しい知識と心理について～(熊本)  
講演 :「不妊とこころ～心理相談室より～」(上野桂子)
- 6.7 セント・ルカ産婦人科職員親睦会 平治岳登山&観光 登山者 : 25 名
- 6.12 第 100 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 6.13 大分県立看護科学大学講義 参加<山路、平松、工藤由、後藤香、深田、井澤、三重野、松元、門屋、指山>  
講義 :「不妊症講座」(院長)
- 6.16 第 122 回 体外受精教室 参加者 57 名 参加<山路、井澤、桑野、三重野、齊高>
- 6.16 第 3 回 第 3 期・第 4 期合同オリーブの会 参加者 6 名
- 6.18 新職員 岡田清美さん(看護部)

## 行事一覧(4)

---

- 2007 6.18 第5回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会  
倫理委員：上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、大塚三千代先生(大分大学医学部附属病院 看護部長)、緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)  
6.18 大分放送(OBS)より取材  
6.23 第24回 新患教室 参加者70名 参加<岡田、深田、河野、足立直、指山>  
6.23 第1回 2007年度(第1期)不妊相談士養成講座(東京) 参加<城戸、後藤裕、門屋>  
6.26 第93回 大分県周産期研究会 参加<山路、平松、足立小、渡邊、佐藤久、那須、後藤香、熊迫、大津、岡田、深田、井澤、桑野、足立直、関、松元、越光、斎高、門屋、指山、上野、院長>  
発表：「女性患者の意識調査～不妊原因による比較検討～」(篠田多加子)  
6.30 第19回 大分内視鏡下外科手術研究会 参加<桑野、赤嶺>  
発表：「2nd-look laparoscopy の有用性について」(院長)  
6.30 第14回 セント・ルカセミナー懇親会(全日空オアシスホテル)  
7.1 第14回 セント・ルカセミナー  
講師 吉村 泰典先生<慶應義塾大学医学部産婦人科教室教授>  
「再生医療への道」  
講師 森 崇英先生<醍醐渡辺クリニック不妊センター長、京都大学名誉教授>  
「習慣流産の取扱い」  
講師 有馬 隆博先生<東北大学21世紀COEプログラム独立COEフェロー客員助教授>  
「生殖補助医療におけるゲノムインプリントの問題点と今後の展望」  
講師 辻英美さん<NPO法人Fine～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～>  
「不妊治療を体験して、嬉しかったこと、悲しかったこと」  
講師 斎藤仲道先生<医療法人天神会新古賀病院臨床遺伝学指導医 遺伝カウンセラー>  
「着床前診断～遺伝子・染色体検査精度をどう担保するのか～」  
7.2 内田クリニック(島根) 坂本ルミ先生研修のためご来院  
7.4 参議院議員 山崎まや氏ご来院  
7.5 セント・ルカセミナー打上げ  
7.7 第25回 新患教室 参加者41名 参加<岡田、深田、河野、足立直、指山>  
7.12 ISO勉強会 日本LCA 田中繁充氏ご来院  
7.13 新職員 西郡朝美さん(受付)  
7.13 大分ゼロックスDokuWorks教室 参加<山路、工藤由>  
7.21 第123回 体外受精教室 参加者51名 参加<西郡、岡田、桑野、三重野、斎高>  
7.24 ISO9001外部審査 NQA-Japan 川合健一郎氏ご来院  
7.26 大分医療事務専門学校 丸石絵莉さん医療機関見学のためご来院  
7.27 福岡BMT研究会(福岡) 参加<那須、後藤香、院長>  
7.27 岩手県立農業大学校 後藤真さん院内見学のためご来院  
7.28 第2回 2007年度(第1期)不妊相談士養成講座(東京) 参加<城戸、後藤裕、門屋>  
8.4 第31回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者65名  
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>  
参加<工藤由、西郡、足立小、渡邊、那須、岡田、深田、後藤裕、河野、足立直、篠田>  
8.4 第32回 ガーネットサークル OG1名、参加者4名  
8.10 共同通信社 浅見英一さん「精子インプリント遺伝子異常」についての取材のためご来院

## 行事一覧(5)

---

- 2007 8.11 A-PART 日本支部学術講演会 2007(東京) 参加<佐藤晶、熊迫>  
Session 2「着床前診断」座長：院長  
発表：「複数施設における悪性腫瘍未婚女性患者における卵子採取、  
ならびに凍結保存の臨床研究の現況」(院長)
- 8.14 第 101 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 8.17 県立広島病院 賀藤知江さん、脇田恭子さん、植田彩さん研修のためご来院
- 8.18 第 124 回 体外受精教室 参加者 46 名 参加<山路、桑野、三重野、酒井、斎高>
- 8.18 第 4 回 第 3 期・第 4 期合同オリーブの会 参加者 4 名
- 8.18 遺伝カウンセラー・コーディネータユニットシンポジウム(京都) 参加<城戸、大津>
- 8.21 防災訓練
- 8.28 アンジェリック クリニック浦田(大分) 院長 浦田憲一郎先生、師長 實崎千沙さん、  
看護師 佐藤祐子さん・石富玲子さん ミーティング見学のためご来院
- 8.28 大分合同新聞より共同通信社記事(精子インプリント遺伝子異常)掲載を受けての取材
- 8.30 第 25 回 日本受精着床学会総会・学術講演会(宮城) 参加<指山、院長>  
シンポジウム 3「臨床心理カウンセリングの実際 2007」座長：上野桂子  
シンポジウム 5「ART における基礎分野との産学連携」座長：院長  
シンポジウム発表：「当院の着床前診断への取り組み」(大津英子)  
発表：「CMI 健康調査による不妊症患者の健康状態について」(酒井操)  
「女性患者の意識調査～不妊原因による比較検討～」(篠田多加子)  
「ヒト精子におけるメチル化解析」(佐藤久子)  
「採卵時の麻酔薬がマウス胚発生に及ぼす毒性の影響」(那須恵)  
「当院における体外成熟(IVM)卵子の妊娠成績」(佐藤千賀子)  
「conventional IVF 後の未受精卵に対する ICSI の検討」(城戸京子)  
「呼吸能測定によるヒト胚クオリティー評価の試み」(後藤香里)  
「妊娠に至らず治療終結を決意した元患者を囲む会」を開催して」(上野桂子)
- 8.30 第 25 回日本受精着床学会総会・学術講演会(宮城)SarahBase ブース展示 参加<山路、工藤由>
- 8.30 第 20 回 JISART 理事会(宮城) 参加<院長>
- 8.31 日本生殖医療心理カウンセリング学会役員会(宮城) 参加<上野、院長>
- 9.1 第 26 回 新患教室 参加者 60 名 参加<西郡、深田、後藤裕、河野、指山>
- 9.1 大分市医師会学術講演会 参加<井澤、関、斎高、越光、赤嶺、篠田、門屋、原井、指山、  
院長>
- 9.8 講演会「医療事故を繰り返さないために」(大分) 参加<大津、越光、篠田、上野>
- 9.8 大分県看護協会研修会「看護と感染管理」 参加<門屋>
- 9.8 第 44 回 九州首市医師会連絡協議会(福岡) 参加<院長>
- 9.11 第 102 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 9.12 英ウィメンズクリニック(兵庫) SarahBase デモンストレーション <山路、工藤由>
- 9.13 ISO 勉強会 日本 LCA 田中繁充氏ご来院
- 9.15 ISIVF 14th World Congress on In Vitro Fertilization & 3rd World Congress on In Vitro  
Maturation (CANADA) 参加<院長>
- 発表：「Evaluating the quality of human embryos with a measurement of oxygen consumption  
by scanning electrochemical microscopy」(後藤香里)  
「The Efficacy of Transfer the Embryos Frozen-Thawed Twice」(熊迫陽子)
- 9.16 「すまいる」勉強会(東京) 参加<門屋>
- 9.22 第 125 回 体外受精教室 参加者 46 名 参加<西郡、岡田、桑野、酒井、三重野、斎高>
- 9.25 新職員 佐土原香織さん(受付)

## 行事一覧(6)

---

- 2007 9.29 第 10 回 日本 IVF 学会(横浜) 参加<城戸>  
ポスター発表 :「呼吸能測定によるヒト胚クオリティー評価の試み」(那須恵)  
10.1 胚培養士技術研修 札幌厚生病院(北海道) 西井由貴さん(2008 年 3 月 31 日まで)  
10.3 英ウィメンズクリニック(兵庫) SarahBase 導入打合せ <山路、工藤由>  
10.6 第 27 回 新患教室 参加者 51 名 参加<佐土原、西郡、深田、後藤裕、河野、指山>  
10.9 第 6 回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会  
倫理委員 : 上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、緒方俊一先生  
(おがた泌尿器科 医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園保育士)、指山実千代  
(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師)  
(五十音順)  
10.10 新職員 別所かおりさん(厨房)  
10.16 第 103 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  
10.18 第 26 回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会  
参加<山路、平松、佐土原、西郡、梅田、越名、佐藤久、那須、城戸、長木、大津、岡田、  
深田、井澤、桑野、足立直、松元、関、斉高、越光、赤嶺、篠田、門屋、原井、指山、  
西井(札幌厚生病院より研修中)、院長>  
「不妊症に対するレーザー治療」(日本医用レーザー研究所 所長 大城俊夫先生)  
10.18 大分市自衛消防競技大会 参加<工藤由、佐藤久、三重野>  
10.20 第 126 回 体外受精教室 参加者 52 名 参加<佐土原、西郡、桑野、三重野、斉高、  
西井(札幌厚生病院より研修中)>  
10.20 第 5 回 第 3 期・第 4 期合同オリーブの会 参加者 4 名  
10.21 第 14 回 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(久留米) 参加<佐藤晶、院長>  
発表 :「ロバートソン型転座保因者における着床前診断」(大津英子)  
10.25 第 52 回 日本生殖医学会総会・学術講演会(秋田)  
シンポジウム発表 :「高齢婦人におけるカウンセリングとサポート」(院長)  
発表 :「マウス胚におけるプロテオーム解析」(佐藤久子)  
「ヒト精子におけるインプリント遺伝子のメチル化解析」(佐藤晶子)  
「体外受精と精子 DNA 損傷率についての検討」(長木美幸)  
「CMI 健康調査による不妊症患者の健康状態について」(酒井操)  
「女性患者の意識調査～不妊原因による比較検討～」(篠田多加子)  
「妊娠に至らず治療終結を決意した元患者を囲む会」を開催して」(上野桂子)  
10.25 第 52 回 日本生殖医学会総会・学術講演会(秋田)SarahBase ブース展示 参加<山路、工藤由>  
10.25 A-PART 打合せ会議(秋田) 参加<院長>  
10.27 第 3 回 2007 年度(第 1 期)不妊相談士養成講座(東京) 講師<上野>  
参加<城戸、後藤裕、門屋>  
10.28 第 4 回 大分県母性衛生学会総会・学術集会(大分) 参加<佐土原、西郡、越名、岡田、井澤、  
桑野、二宮、斉高、越光、赤嶺、篠田、指山、上野>  
発表 :「CMI 健康調査による不妊症患者の健康状態について」(酒井操)  
「当院の 15 年の不妊症診療の成績」(院長)  
10.29 国際医療福祉大学(栃木) 清水清美さん研究調査依頼のためご来院  
11.1 日・韓・台 キリスト教病院 最高経営者会議(沖縄) 参加<院長>  
11.1 院内電話工事開始

## 行事一覧(7)

---

- 2007 11.2 卵巣に関する国際カンファレンス 2007(箱根) 参加<院長>  
ポスター発表:「Evaluating the quality of human embryos with a measurement of oxygen consumption by scanning electrochemical microscopy」(後藤香里)  
「The Efficacy of Transfer the Embryos Frozen-Thawed Twice」(熊迫陽子)
- 11.6 第 104 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 11.6 東京 HART クリニック(東京)SarahBase 導入のための最終打合せ 参加<山路、工藤由>
- 11.10 第 33 回 ガーネットサークル OG1 名、参加者 4 名
- 11.11 東北大学大学院医学系研究科(宮城) 有馬隆博先生との TS 細胞樹立のための基礎実験  
参加<佐藤晶>
- 11.13 ISO9001 日本エム・エム・シー 田中繁充氏ご来院
- 11.14 第 86 回 大分県内分泌同好会 参加<佐藤久、城戸、後藤香、大津、院長>
- 11.17 第 28 回 新患教室 参加者 44 名 参加<佐土原、岡田、後藤裕、河野、足立直、指山、  
西井(札幌厚生病院より研修中)>
- 11.17 第 1 回 第 5 期オリーブの会 参加者 8 名
- 11.18 RTAC 施設認定審査員研修(大阪) 参加<大津、門屋、上野、院長>
- 11.23 A-PART 日本支部主催 2007 年度第 2 回ワークショップ(東京) 参加<佐藤晶>  
講師:「着床前診断の理論および手技に関するテクニカルワークショップ」(大津英子)
- 11.24 第 127 回 体外受精教室 参加者 46 名 参加<佐土原、山路、桑野、酒井、斉高>
- 11.27 ISO9001 マネジメントレビュー 日本エム・エム・シー 田中繁充氏ご来院
- 11.28 ISO9001 内部監査 日本エム・エム・シー 田中繁充氏ご来院
- 12.1 第 32 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 75 名  
講師<指山(看護師長)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生> 参加<山路、工藤由、  
佐土原、西郡、梅田、佐藤晶、深田、河野、足立直、西井(札幌厚生病院より研修中)>
- 12.1 第 4 回 2007 年度(第 1 期)不妊相談士養成講座(東京) 講師<上野>  
参加<城戸、後藤裕、門屋>
- 12.1 医療安全管理者養成研修 1 参加<酒井、越光>
- 12.6 大分県立看護科学大学講義 講師<上野、院長> 参加<山路、工藤由、佐土原、西郡、  
佐藤晶、岡田、深田、井澤、足立直、閔、斉高、赤嶺、篠田、原井、指山>  
講義:「不妊症講座」(院長)  
「不妊症講座ー心理とサポートー」(上野桂子)
- 12.7 医療安全管理者養成研修 2 参加<酒井、越光>
- 12.8 第 4 回 ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんのお話 参加者 12 名
- 12.8 医療安全管理者養成研修 3 参加<酒井、越光>
- 12.11 第 105 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 12.13 医療安全管理者養成研修 4 参加<酒井、越光>
- 12.14 平成 19 年度 看護管理者研修会 参加<門屋>
- 12.15 第 21 回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>
- 12.16 RTAC 施設認定審査員研修(東京) 参加<院長>
- 12.21 医療安全管理者養成研修 5 参加<酒井、越光>
- 12.22 忘年会
- 12.24 クリスマス会
- 12.29 第 128 回 体外受精教室 参加者 44 名 参加<桑野、三重野、酒井、斉高>

## 行事一覧(8)

---

2008	1.10	新年会(セント・ルカ多目的ホール)
	1.12	第 29 回 新患教室 参加者 67 名 参加<佐藤晶、岡田、深田、後藤裕、河野、足立直、指山>
	1.15	第 106 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
	1.19	第 129 回 体外受精教室 参加者 26 名 参加<井澤、桑野、三重野、斎高>
	1.26	第 2 回 第 5 期オリーブの会 参加者 7 名
	1.26	第 5 回 日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会(東京) 参加<院長>
	1.29	釘宮磐大分市長を囲んでの竜馬会(大分市) 参加<院長>
	1.31	日本学術会議主催公開講演会「生殖補助医療のいま—社会的合意を求めて」(東京) 参加<院長>
	2.2	JA 北海道厚生連札幌厚生病院(北海道) 三國雅人先生 施設見学のためご来院
	2.3	第 5 回 日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(東京) 参加<門屋> 教育セミナー「不妊治療における統合医療の意義」座長：院長 教育セミナー講演：「生殖心理カウンセリングの現状と問題点」(上野桂子) 発表：「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)
	2.9	第 30 回 新患教室 参加者 70 名 参加<岡田、深田、後藤裕、河野、指山>
	2.9	第 6 回 第 3 期・第 4 期オリーブの会 参加者 7 名
	2.12	第 107 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
	2.16	第 34 回 ガーネットサークル OG1 名、参加者 8 名
	2.16	第 5 回 2007 年度(第 1 期)不妊相談士養成講座(東京) 参加<城戸、後藤裕、門屋>
	2.16	第 11 回 胎児遺伝子診断研究会(長崎) 参加<佐藤晶、院長> 発表：「当院の着床前診断への取り組み」(大津英子)
	2.17	大分市医師会立 アルメイダ病院内覧会 参加<山路、工藤由、足立小、越名、酒井、関、 越光、篠田、指山、院長>
	2.19	防災訓練
	2.23	第 130 回 体外受精教室 参加者 55 名 参加<佐藤久、井澤、桑野、斎高>
	2.23	第 3 回 第 5 期オリーブの会 参加者 9 名
	2.24	日本受精着床学会 第 4 回 ART 生涯研修コース(東京) 参加<佐藤晶、城戸、院長>
	2.26	第 95 回 大分県周産期研究会 参加<山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、越名、 佐藤千、後藤香、熊迫、長木、大津、岡田、深田、井澤、桑野、後藤裕、三重野、足立直、 松元、赤嶺、斎高、原井、指山、上野、西井(札幌厚生病院より研修中)> 発表：「生殖補助医療の現状について」(院長) 「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)
	2.29	「悪性腫瘍未婚女性患者における卵子採取、ならびに凍結保存の臨床研究」についての講演会 (大阪) 発表：「A-PART 日本支部における悪性腫瘍未婚女性患者からの 卵子採取凍結保存に対する取組と現状」(院長)
3.1		第 22 回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>
3.2		JISART 施設認定審査 審査員<門屋> オブザーバー参加<院長(JISART-RTAC 審査委員長)>
3.9		JISART 施設認定審査 審査員<上野、院長>
3.9		JISART 施設認定審査 審査員<大津>
3.10		高度生殖医療技術研究所(群馬)所長 荒木康久先生ご来院・ご指導
3.15		第 131 回 体外受精教室 参加者 43 名 参加<桑野、三重野、斎高>
3.16		第 3 回 レーザーリプロダクション学会(東京) 参加<院長>
3.16		JISART 施設認定審査 審査員<上野>
3.18		第 108 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院

## 行事一覧(9)

---

- 2008 3.18 診療報酬点数表改正に向けての説明会 参加<足立小、越名>  
3.22 第33回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者84名  
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>  
参加<佐土原、越名、熊迫、岡田、河野、足立直>  
3.26 矢野産婦人科(愛媛) SarahBase デモンストレーション <工藤由>  
3.29 第4回 第5期オリーブの会 参加者6名  
3.30 第3回 日本生殖再生医学会・学術集会(東京)  
シンポジウム「着床に関する理論と実践」座長：院長  
ポスター発表：「ART後の流産絨毛におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」(佐藤晶子)  
「走査型電気化学顕微鏡を用いたヒト胚の呼吸量測定の臨床的有用性」(後藤香里)  
「割球大小不同を考慮にいれた着床前診断」(大津英子)  
4.3 セント・ルカ産婦人科&メディック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)  
4.8 第109回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  
4.11 県立広島病院(広島) 統計解析指導 <山路、工藤由>  
4.12 第31回 新患教室 参加者69名 参加<深田、後藤裕、足立直、指山>  
4.12 第7回 第3期・第4期合同オリーブの会 参加者3名  
4.13 第60回 日本産科婦人科学会(神奈川) 参加<院長>  
4.15 心肺蘇生法(AED・担架設置に伴う)勉強会  
4.18 第27回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会 参加<山路、平松、工藤由、  
佐土原、西郡、足立小、佐藤千、大津、岡田、深田、井澤、後藤裕、松元、齊高、赤嶺、篠田、  
門屋、指山、上野、河邊、院長>  
「病態から見た黄体機能不全」  
(山口大学大学院医学系研究科 産科婦人科学 教授 杉野法広先生)  
4.19 第132回 体外受精教室 参加者47名 参加<井澤、岡田、齊高>  
4.19 京野アートクリニック開院記念 IVF/IMSIセミナー＆ワークショップ(宮城) 参加<小池、城戸>  
4.20 JISART 施設認定審査  
4.20 第7回生殖補助医療胚培養士資格認定制度資格審査 受験<佐藤久>  
4.26 第4回 福岡産婦人科内視鏡手術懇話会(福岡) 参加<三重野、越光>  
発表：「不妊症患者における腹腔鏡検査前後の心理」(河野絢子)  
「不妊症における子宮筋腫核出術後 2nd-look laparoscopy の意義」(院長)  
4.26 第5回 第5期オリーブの会 参加者3名  
4.27 第65回 日本生殖医学会九州支部会(福岡) 参加<河野、院長>  
一般演題「心理と看護」座長：(上野桂子)  
発表：「ART後の流産産物におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」(佐藤晶子)  
「走査型電気化学顕微鏡(SECM)を用いたヒト胚の呼吸量測定の臨床的有用性」  
(熊迫陽子)  
「当院における体外受精教室の現状—教室前後の質問紙調査からー」(三重野直美)  
「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)  
5.2 矢野産婦人科(愛媛)開院式 参加<院長>  
5.10 第32回 新患教室 参加者65名 参加<深田、後藤裕、河野、足立直、指山>  
5.13 第110回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  
5.17 第49回 日本哺乳動物卵子学会(愛知) 参加<院長>  
発表：「ART後の流産におけるゲノムインプリント解析」(佐藤晶子)  
「走査型電気化学顕微鏡を用いたヒト胚の呼吸量測定の臨床的有用性」(熊迫陽子)  
5.17 第49回 日本哺乳動物卵子学会(愛知) SarahBase ブース展示<山路、工藤由>

## 行事一覧(10)

---

2008	5.17	第6回 日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会(名古屋) 参加<院長>
	5.20	ISO9001 マネジメントレビュー
	5.21	ISO9001 内部監査
	5.22	金沢医科大学生殖周産期医学(石川) 富澤英樹先生研究のためご来院
	5.24	第133回 体外受精教室
	5.24	第35回 ガーネットサークル
	5.31	第6回 第5期オリーブの会
	6.1	第15回 セント・ルカセミナー
		講師 東口篤司先生<KKR 札幌医療センター斗南病院生殖内分泌科 科長> 「着床率の改善のために～ 1) もう D&C(搔爬手術)はやめよう 2) もっとホルモン補充周期を用いた凍結胚移植を 3) 子宮中隔、Asherman 症候群の手術における術中子宮腔造影と IUD の工夫」
		講師 久保田健夫先生<山梨大学大学院医学工学総合研究部環境遺伝医学講座 教授> 「エピジェネティクスと疾患～周産期環境によるエピジェネティクス変化の可能性～」
		講師 有馬隆博先生<東北大学未来医工学治療開発センター 准教授> 「ART をめぐる遺伝学的問題点への解明～特に男性不妊とエピジェネティクス」
		講師 荒木康久先生<高度生殖医療技術研究所 所長> 「見直してみたい体外受精のラボ業務 ～あなたの技術に一步工夫してみたらどうでしょう？」
		講師 森崇英先生<醍醐渡辺クリニック 不妊センター長、京都大学名誉教授> 「卵胞閉鎖のホルモン調節」
		講師 石井慶子先生<NPO 法人 Fine～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会> 「不妊と向き合うために必要な力～Fine ピア・カウンセラーの活動から」
6.7		JISART 教育セミナー(東京) 参加予定<工藤由、越名、熊迫、大津、篠田、門屋>
6.7		第23回 JISART 理事会(東京) 参加予定<院長>
6.8		第6回 JISART シンポジウム(東京) 参加予定<工藤由、越名、熊迫、大津、篠田、門屋、指山、上野> 会長講演：「JISART のいち会員として」(院長) シンポジウム「妊娠困難例(高齢患者に対して)に対してこうしている」座長：(院長)
6.11		大分県立看護科学大学講義 講義：「不妊症講座」(院長)
6.14		第8回 第3期・第4期合同オリーブの会開催予定
6.21		第34回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)開催予定 講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
6.28		第48回 日本先天異常学会学術集会(東京) 参加予定<城戸、大津、院長>
7.6		24th ANNUAL MEETING ESHRE2008(Barcelona, SPAIN) 参加予定<熊迫、酒井、院長>
7.19		第33回 新患教室開催予定
7.20		第5回 A-PART 日本支部学術講演会(東京) 参加予定<小池、城戸> 教育講演「生殖細胞形成過程におけるエピジェネティクス」座長：院長 発表：「卵子凍結保存臨床研究の現状報告」(院長)
7.21		第2回 Minimal Stimulation 研究会(東京) 参加予定<小池、城戸、院長>
7.22		ISO9001 外部審査

## 行事一覧(11)

---

- 8.28 第 26 回 日本受精着床学会総会・学術講演会(福岡)参加予定  
シンポジウム「ART におけるカウンセリングの重要性」座長：上野桂子  
フリートークセッション「習慣流産の PGD」進行役：大津英子  
「ART におけるカウンセリング」進行役：上野桂子  
「日産婦指導の個別調査に対する各施設の現況と問題点」進行役：院長  
発表：「不妊治療後の流産時に得られた胎盤絨毛におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」  
(佐藤晶子)  
「ヒト未成熟卵子の採卵時における血清中 LH/FSH 比が、  
IVM 後の卵子成熟率、初期胚発生率、妊娠成績に及ぼす影響」(佐藤千賀子)  
「ヒト胚を用いた走査型電気化学顕微鏡(SECM)による呼吸量測定の臨床的有用性」  
(後藤香里)  
「不妊原因別の卵管上皮細胞の培養結果と予後について」(熊迫陽子)  
「当院での着床前診断」(大津英子)
- 10.22 第 53 回 日本生殖医学会総会・学術講演会(神戸)参加予定

# 論文一覧

---

- 2007 「医療と社会」(院長) セミナー医療と社会 31:3-14,2007  
「ヒト胚における割球大小不同と染色体異常の関係」(大津英子)  
受精着床学会雑誌 24(1):34-37,2007
- 「ウレアプラズマ感染が生殖補助医療に及ぼす影響」(長木美幸)  
受精着床学会雑誌 24(1):222-225,2007
- 「Aberrant DNA methylation of imprinted loci in superovulated oocytes」(佐藤晶子)  
Human Reproduction 22(1):26-35,2007
- 「Assessment of human oocyte developmental competence by cumulus cell morphology and circulating hormone profile」(佐藤千賀子) RBM Online 14(1):49-56,2007
- 2008 「Evaluating the quality of human embryos with a measurement of oxygen consumption by scanning electrochemical microscopy」(院長) J.Mamm.Ova.Res.,Vol.25,2008 (掲載予定)  
「着床前診断におけるバイオプシーの注意点」(大津英子) J.Mamm.Ova.Res.,Vol.25 No.2,2008 (掲載予定)  
「The Efficacy of the Transfer of Twice Frozen-Thawed Embryos with Vitrification Method」  
(熊迫陽子) Fertility and Sterility (掲載予定)  
「ゲノムインプリントングと生殖補助医療(ART)～当院での研究紹介」(佐藤晶子)  
J.Mamm.Ova.Res.,Vol.25 No.2,2008 (掲載予定)  
「Adding progesterone assists human cumulus-oocyte complexes with poor morphology to acquire developmental competence during in vitro maturation」(佐藤千賀子) RBM Online (投稿中)

# 著書(共著)一覧

---

- 2007 「胚盤胞移植」(院長)『産婦人科－専門医にきく最新の臨床』(中外医学社)  
「胚盤胞期胚移植」(院長)『週刊 医学のあゆみ』223巻1号 (医歯薬出版株式会社)  
「赤ちゃん～今ならきっと授かる～改訂版」(院長) (セント・ルカ産婦人科)
- 2008 「採卵法－私はこうしている」(院長)『臨床婦人科産科』第62巻7号 (医学書院) (掲載予定)  
「不妊治療の終結における患者サポートについての検討－「妊娠に至らず治療終結を決意した元患者を囲む会」を開催して－」(上野桂子)『産婦人科の実際』(金原出版) (掲載予定)  
「生殖医療と心理カウンセリング」(上野桂子)『医療現場のコミュニケーション』(あいり出版)  
(掲載予定)  
「電気化学的呼吸能計測によるヒト胚のクオリティ評価」(小池恵)  
『産婦人科の実際』第57巻2号 (金原出版)

**院內活動**

# セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

## セント・ルカセミナー

開催頻度：1回／1年

セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、毎年国内外から、著名な先生方をお招きし、当院多目的ホールにてシンポジウムを行っている。

セミナー前日には、懇親会も行われ、医師、エンブリオロジストの貴重な情報交換の場として役立っている。セミナー開催にあたっては、企画・立案・運営までを全て当院で行っている。

## 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

開催頻度：1回／3ヶ月

(不妊検査・治療についての説明会。これから治療を受けようとされている方や、初診後間もない患者さんが対象)

広く不妊治療を知ってもらう目的で、3ヶ月に1回院外の会場で行い、参加者の方が、ゆったり、リラックスしていただけるように、コーヒーとケーキを用意している。パソコンプロジェクターを使用し1時間程詳しく院長が説明をした後、不妊治療に協力的な泌尿器科の先生に男性不妊の治療説明などをしていただいている。2005年からは臨床心理士による心のお話、2006年からは看護師長による治療内容等の説明も行っている。当院OG(当院で治療後赤ちゃんを授かり出産へと至った方)のお話も30分程聞く事ができる。OG自身の治療歴から始まり、治療中に立ちはだかる大きな壁をどうやって越えたのか、心の中で日々大きくなる悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者さんの気持ちで参加者にお話ができるため好評である。

## ガーネットサークル

開催頻度：1回／3ヶ月

(治療中の患者さんが、治療・出産経験者に直接話を聞いて、お話ができる会)

当院で治療し、出産へと至った方にお願いをして、現在治療中の患者さんとの交流の場を設けている。テーマはその都度異なっているが、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるよう心がけている。経験者の話を聞く事により、患者さんの視野を広げ、悩んでいるのは自分ひとりではないのだということの再認識もできる貴重な会である。

ガーネットサークルの由来は、ガーネットの和名「ざくろ石」からきている。ざくろは風水では子宝に恵まれるという意味を持っているので、全ての患者さんが子宝に恵まれる事を祈って、ガーネットサークルと名づけた。

## オリーブの会(第1～5期)

開催頻度：1回／1ヶ月～2ヶ月

(体外受精をしている40歳以上の患者さんの集い)

治療を進めていく上で、焦りやストレスを感じている不妊患者さんが多い。その上、治療に対するストレスだけでなく年齢的な焦りと直面した患者さんは近年増加している。このような患者さんへのサポートの必要性を感じ立ち上げられた会である。心理士と看護師を交えてお茶を楽しみながらリラックスした自由な話し合いの場を設けている。

## 治療を終結した方のお話

開催頻度：1回／1年

以前不妊治療をしていた方(現在はご夫婦だけの生活を選ばれた方)に、現在、不妊治療をしている患者さんに対して、当時の治療や現在の生活についてのお話をしていただく会。

## 体外受精教室

開催頻度：1回／1ヶ月(土曜日)

(ARTにすすむ患者さんへの説明会)

初めて体外受精を受けられる患者さん向けに、体外受精治療の過程や、体外受精前後の体の変化など、院長が約5時間かけて分かりやすく説明している。パソコンプロジェクターを使用し、写真や画像を多用することにより、より分かりやすい内容となっている。ほとんどの患者さんがご夫婦で参加されるため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考える事ができ、その後の治療にも役立っている。

## 新患教室

開催頻度：1回／1ヶ月(土曜日)

(主として初診から1ヶ月以内の患者さんが対象)

当院の多目的ホールにて、院長が3時間程初診時の検査から体外受精までを詳しく説明している。2006年からは看護師によるお話をも行っている。早い時期に夫婦で参加する為、治療の理解が深まり、その後の治療にも役立っている。

## 新患オリエンテーション

開催頻度：初診時

初診時、診察終了後に主任クラスの看護師が行っている。1時間程かけて、写真や資料を使い、患者さんへ病状説明、今後の治療のすすみ方や費用面での説明をしている。

## 院長相談

開催頻度：毎週月・水・金の18:00～(予約制)

普段の診療で聞けなかった事や、なんなく疑問に思っていることを、他の患者さんを気にすることなく院長に相談できる。理解できるまで、分かりやすく説明が聞けるので、患者さんに好評である。

## 心理専門相談室

開催頻度：毎週火・金・土の午前中(予約制)

2001年より、専門の心理士による、きめ細やかな相談業務が行われている。患者さんが抱える深刻な悩みを、幅広く受け止められるよう努めている。

## なんでも相談

看護部

開催頻度：月・水・金の14:00～(予約制)

(主任クラスの看護師による相談)

不妊という悩みを抱えた患者さんを支える為に教育された看護スタッフにより行われている。患者さんが抱えているストレスや悩み、治療についての質問など、なんでも相談できる場として設けている。

## ラボ

開催頻度：毎日 11:00～12:00(予約制)

(胚培養士資格保持者による相談)

精液検査、IUI(人工授精)、精子凍結、胚凍結、体外受精に関する質問を相談できる場として設けている。

## 院内研修

開催頻度：毎週火曜日午後

毎週火曜日の 13:30～17:30 の 4 時間かけて、職員全員を集めての院内研修およびミーティングを行っている。培養室・検査室より、研究結果の発表や海外論文詳読、各部署より医療過誤につながりうる可能性のミスを報告し、今後の為に協議する「ヒヤリ・ハット」報告、また、その週に治療を受ける患者さんについての治療方針などを話し合っている。

このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、個人個人の考えを述べる機会を作っている。

## 培養室朝ミーティング

開催頻度：毎朝 20 分程

培養室の職員と院長とで培養中の胚の観察結果報告や、当日行われる採卵予定患者さんの検査結果報告、胚移植予定者報告を行っている。また、個人が担当している研究の途中経過報告や新しい研究の提案など活発な意見交換も行われている。

## 培養室ミーティング

開催頻度：月 2 回午後半日

培養室の職員全員で、日常業務や各自の研究テーマ、基礎知識に関する勉強会を行ったり、SarahBase を用いたデータ整理に関する検討を行っている。

## その他

開催頻度：隨時

### 外来相談係(看護部)

患者さんからの質問に答えると共に、説明も行う。

### 腹腔鏡検査前の説明(看護部)

腹腔鏡検査目的で入院される方に説明を行う。

### 開腹手術前の説明(看護部)

開腹手術目的で入院される方に説明を行う。

### 手術前説明(院長)

手術内容と進め方について説明を行う。

### 手術後説明(院長)

手術時のビデオを見ながら、手術や予後の説明を行う。

### ART オリエンテーション(看護部)

体外受精に入る前の患者さんに体外受精の説明を行う。

### ART 結果説明(1) (ラボ：胚培養士資格保持者)

体外受精・胚移植直前に、培養した胚の説明等を行う。

### ART 結果説明(2) (看護部)

妊娠反応のチェック時に、結果説明と共に進行。

### ART 結果説明(3) (ラボ：胚培養士資格保持者)

体外受精後、移植できなかった場合にその理由等を説明する。

## スタッフ配置

院長 宇津宮隆史

医師 河邊史子、伊東裕子

### 培養室・検査室

大津英子、長木美幸、熊迫陽子、後藤香里、城戸京子、  
佐藤千賀子、佐藤晶子、小池 恵、佐藤久子

### 看護部

指山実千代、原井淳子、門屋英子、篠田多加子、赤嶺佳枝、  
越光直子、河野絢子、工藤美子、斎高美穂、二宮 瞳、  
関こずえ、松元恵利子、足立直美、三重野直美、酒井 操、  
桑野紀子、後藤裕子、井澤里砂、深田留美、岡田清美

### 心理専門相談室

上野桂子(臨床心理士・生殖心理カウンセラー)

### 総務部

宇津宮富美子

### 受付

渡邊佳代、越名久美、梅田麻衣、足立小百合、西郡朝美、佐土原香織

### 情報処理室

工藤由香、平松里美、山路美和

### 厨房

後藤江美子、矢野千恵美、別所かおり、首藤清子

## 病院概要

名 称	医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所		
開設年月日	1992 年 6 月 3 日		
住 所	〒870-0947 大分市津守富岡 5 組 TEL 097-568-6060 FAX 097-568-6299 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp <a href="http://www.st-luke.jp/">http://www.st-luke.jp/</a> <a href="http://www.st-luke.jp/imode.htm">http://www.st-luke.jp/imode.htm</a> (携帯電話用)		
許可病床数	13 床		
職 員 数	総数 47 名 常勤医 1 名      臨床心理士 1 名 非常勤医 2 名      総務部 1 名(兼任) 培養室 6 名      受付 6 名 検査室 3 名      情報処理室 3 名 看護師 12 名      調理士 4 名 准看護師 8 名      栄養士 1 名		
診 療 時 間	月・水・金: 8:30~11:30 17:00~18:30(要予約) 火・木・土: 8:30~11:30 (祭日を除く)		

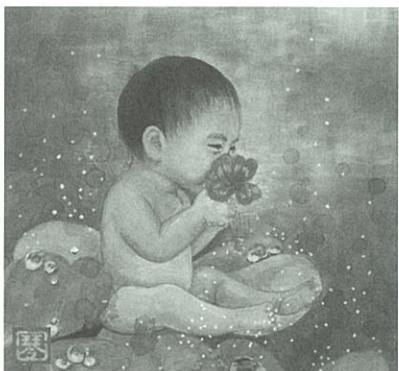


<本年報の集計も NEW SarahBase を用いました>

**NEW**

# Sarah Base

Medical & Statistical Data Base Ver. 2.0  
Windows98/Me/2000/XP



臨床データ管理・医学統計解析ソフト  
さらに機能が充実しました。

日々の診療で得られたデータを整理し、保管し、  
必要に応じて統計処理し、学会に発表する。  
手間を掛けずにデータを蓄積し、手間を掛けずに  
統計処理まで行う。そんな優れものがこのひと箱に…  
頼りになる偉大な味方です。

- 製品構成 SarahBase診療支援/データ排出/統計解析/項目管理作成ツール/  
入力画面作成ツール/検査結果報告取込(オプション)/  
レセコン頭書情報取込(オプション) レセコン診療情報取込(オプション) /  
生殖医学臨床実施成績一覧表の集計・印刷(オプション) /  
備品類メンテナンスアラーム(オプション)
- 新機能: データ入力チェック・簡易集計等のマクロ言語ツール(仮称)
- 動作環境CPU: Pentium II 350MHz以上(推奨Pentium III 450MHzクラス以上)  
OS: Windows 98/Me/2000/XP メモリ: 128MB以上 ハードディスク空き容量: 100MB以上

(有)メディテック・ルカ 〒870-0947 大分市津守富岡5組セント・ルカ産婦人科内  
TEL/FAX (097)554-8567  
E-mail mt-luke@oct-net.ne.jp  
<http://www.st-luke.jp/>

## 2007年度年報

---

2008年6月 発行

発 行： 医療法人セント・ルカ産婦人科  
セント・ルカ生殖医療研究所

編 集： 宇津宮 隆史  
〒870-0947 大分市津守富岡5組  
Tel 097-568-6060  
Fax 097-568-6299  
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp  
<http://www.st-luke.jp/>

